

目次

●あいさつ	2
秋田大学大学院医学系研究科長 / 尾野 恭一 平成26年度一令和元年度地域包括ケア・介護予防研修センター長 / 中村 順子	
●地域包括ケア・介護予防研修センター概要	4
●平成26年一令和元年度 事業報告	9
●スタッフより	67



あ い さ つ

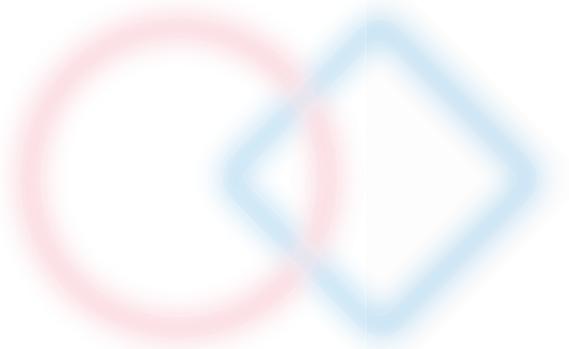
秋田大学大学院医学系研究科長 尾野 恭一

2020年7月1日時点で秋田県の高齢化率（総人口に占める満65歳以上の方の割合）は37.9%となり過去最高を更新しました。秋田県の高齢化率は超高齢化が進む日本においても最も高齢化率が高いとされており、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。そのため、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進することが喫緊の課題となっています。

秋田大学大学院医学系研究科においては、2014年に「地域包括ケア・介護予防研修センター」を設立し、「高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム構築に向けて大学の持つ機能【教育・研究・地域貢献】を用いて参与し貢献する」ことを目的として活動をおこなってまいりました。以来7年間にわたって、看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした教育活動、認知症サポーター養成のための出前講座の開催、暮らしの保健室、基礎教育に役立てるための模擬患者ボランティア養成、県内総合病院看護師のための「退院支援スキルアップ講座」等、様々な地域貢献活動をおこなってまいりました。

このたび、これら一連の活動を本報告書としてまとめることとしました。当センターの活動をさらに促進するためには、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）のPDCAサイクルをうまく活用することが求められます。本報告書を通じて当センターの活動を少しでも多くの方々にご理解いただき、皆様からのCheck（評価）をお願いしたいと存じます。

地域包括システムが目指すゴールは「自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制」です。これをなし得るには、介護・看護・医療に携わる皆様のみならず一般の方々のご理解とご協力が必要です。秋田県の地域包括ケアシステムの構築と推進のために、皆様方のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



あ い さ つ

2014.10～2020.3 センター長
保健学専攻 看護学講座 中村 順子

当センターは2014年10月、「高齢化率1位の秋田県における地域包括ケアシステム構築に向けて、大学の持つ機能【教育・研究・地域貢献】を用いて参与し貢献する」という目的を掲げ開設されました。地域包括ケアシステムとは、自分が望む地域・場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制のことを指します。2015年の開設当時は、2025年までにはどこの市町村も構築しなければならないという大命題が大きな課題となっておりました。当時の伊藤宏医学系研究科長、大友和夫保健学専攻長の大きな後押しの元に医学系研究科附属のセンターとして発足いたしました。

当センターとしては先に掲げた目的を達成するため、教育活動としての現任教育プログラムの開講、地域貢献として認知症サポーターの養成出前講座や暮らしの保健室の開設、研究活動としては退院支援スキルアップ講習会に向けた事前調査等を行って来ています。

更に2017年度からは全学で展開する「あきた未来カフェ事業」の医学部におけるプログラムの開発と実施を委託され、「秋大医学部地域とつながり隊」をはじめ、看護カフェ、ママカフェ、など学生が多様な人々とカフェを通じて知り合い、学ぶという場を作って参りました。特に「秋大医学部地域とつながり隊」は学生が県内市町村に出向き、市町村の実情を知り、人々と出会う事で、学生の地域医療・保健への関心を喚起する目的で展開されましたが、各所から大きな評価を得ております。

このように、この5年間で振り返りますと専任助教の佐藤先生や秋田未来カフェからの事務職の伊藤さんはじめ、ご多忙の中兼任スタッフとして活動を支えてくださる先生方、保健学専攻の先生方など多くの方に支えられながらここまで来ることができたことを痛感いたします。心から感謝を申し上げたいと思います。本報告書はこの5年間の評価も兼ねて作成されたものです。

さて、多彩な企画を具現化し、県民の皆様にも多くのプログラムを提供してきた当センターですが、2020年1月からのcovid-19のパンデミックにより各種研修の中止や暮らしの保健室の休止等を余儀なくされ大きな影響をまだ受け続けている状況です。それでも下半期からはオンラインで研修を再開するなど細々と歩みを止めずしております。当初計画では模擬患者ボランティアの養成を行い、学生の教育に対する直接的な貢献を目指しておりましたが、2020年度は叶いませんでした。ぜひ次年度以降実現したいと思います。

地域包括ケアシステムの構築は医療や保健の充実だけでは難しく、人々の暮らしや住まい、介護など多領域にまたがる街づくりの視点が欠かせません。当センターが担ってきたことを更に発展させ、当センター設立の目的が果たせるような更なる組織づくりや活動が今後も継続できること、そして秋田県民の幸せに寄与できることを願ってやみません。

秋田大学大学院医学系研究科附属 地域包括ケア・介護予防研修センター 概要

1. 地域包括ケア・介護予防研修センター設立の目的

当センターは2014年10月、「高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム構築に向けて大学の持つ機能【教育・研究・地域貢献】を用いて参与し貢献する」という目的を掲げ、開設されました。地域包括ケアシステムとは自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制のことを指し、現在どこの市町村においてもその構築が喫緊の課題となっています。

この目的達成のための活動として、年1～2回の講演会開催、教育活動として現任教育プログラムの開講(看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象)、県内総合病院看護師のための「退院支援スキルアップ講座」、地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室の運営等を行っております。

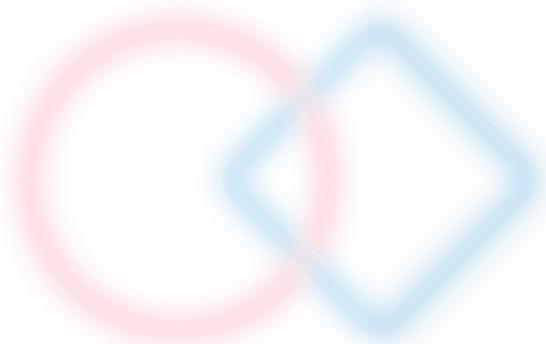
今後も、秋田県の地域包括ケアシステム構築に貢献できるよう活動してまいります。



医学系研究棟



おらほの暮らしの保健室外観



2. 沿革

- 2014年10月 地域包括ケア・介護予防研修センター医学系研究棟1階に開設
2015年 8月 介護支援専門員(現・地域で働く相談支援業務者)のための
ファシリテーションスキルアップ講座開講
2015年10月 看護職(現・地域で働く医療職)のためのフィジカルアセスメント講座開講
2015年11月 介護職のためのフィジカルアセスメント講座開講
2016年 1月 本道会館 2階におらほの暮らしの保健室開設
2017年 4月 あきた未来カフェ事業開始
2018年 1月 暮らしの保健室、センター内に移転
現在に至る



地域包括ケア・介護予防研修センター事業報告書（平成26年～令和元年）

1. 講演会

- ①平成26年10月27日
地域包括ケアにおける大学の役割 ～連携・人材開発～（高橋紘士氏）
- ②平成27年5月8日
医学・看護教育における シミュレーション教育の有効性
—住民参加型 模擬患者を用いて—（藤崎和彦氏）
- ③平成27年10月17日
「秋田県における地域包括ケアシステムの構築に向けて
～先進事例「三方よし」から学ぶ」（小串輝男氏）
- ④平成28年5月22日
「写真が語るいのちのバトンリレー～あたたかな看取りの現場から」（國森 康弘氏）
- ⑤平成28年10月15日
「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に 永源寺の地域まるごとケアから
学ぶ（花戸貴司氏）
- ⑥平成29年6月4日
健康増進外来の取り組み～指導しない糖尿病外来（佐藤元美氏）
- ⑦平成29年10月28日
「みんくるカフェ」の取り組みから～『対話』が生み出す地域力（孫大輔氏）
- ⑧平成30年5月12日
「最期まで口から食べる」ハンズオンセミナー（谷合久憲氏）
- ⑨令和元年11月10日
「がんと共に生きる サッポロビールのサバイバーが見つめる人生と日本のがん対策」
（村本高史氏）

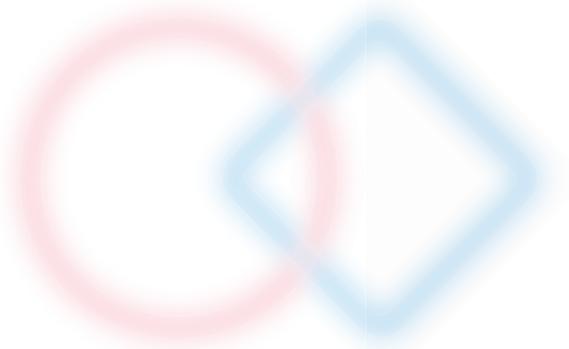
2. 研修

【平成27年】

- ①平成27年度 看護職のためのフィジカルアセスメント講座
- ②平成27年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療につなぐ新しい介護の視点」
- ③平成27年度 介護支援専門員のためのファシリテーションスキルアップ講座

【平成28年度】

- ①平成28年度 地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座
- ②平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点（秋田大学）
- ③平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点（北秋田市）
- ④平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点（横手市）
- ⑤平成28年度 地域で働く相談支援業務者のためのファシリテーションスキルアップ講座



- ⑥平成 28 年度 研修会「安全な移動・移乗」
- ⑦平成 28 年度 退院支援スキルアップ養成プログラム
- ⑧平成 28 年度 お酒と上手に付き合う講座

【平成 29 年度】

- ①平成 29 年度 地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座
- ②平成 29 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（秋田大学）
- ③平成 29 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（能代市）
- ④平成 29 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（大仙市）
- ⑤平成 29 年度 地域で働く相談支援業務者のためのファシリテーションスキルアップ講座
- ⑥平成 29 年度 研修会「安全な移動・移乗」
- ⑦平成 29 年度 退院支援スキルアップ養成プログラム
- ⑧平成 29 年度 お酒と上手に付き合う講座

【平成 30 年度】

- ①平成 30 年度 地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座
- ②平成 30 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（秋田大学）
- ③平成 30 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（湯沢市）
- ④平成 30 年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（大館市）
- ⑤平成 30 年度 地域で働く相談支援業務者のためのファシリテーションスキルアップ講座
- ⑥平成 30 年度 研修会「安全な移動・移乗」
- ⑦平成 30 年度 退院支援スキルアップ養成プログラム
- ⑧平成 30 年度 お酒と上手に付き合う講座

【令和元（平成 31）年度】

- ①令和元年度 地域で働く医療職のためのフィジカルアセスメント講座
- ②令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（秋田大学）
- ③令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（仙北市）
- ④令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座「医療的マインドを持った介護職講座」～医療につなぐ新しい介護の視点（大館市）
- ⑤令和元年度 地域で働く相談支援業務者のためのファシリテーションスキルアップ講座
- ⑥令和元年度 研修会「安全な移動・移乗」
- ⑦令和元年度 退院支援スキルアップ養成プログラム
- ⑧令和元年度 あきたウィメンズカフェ

3. あきた未来カフェ事業

【平成 30 年度】

- ①平成 30 年 第 2、4 金曜日 プレママカフェ
- ②平成 30 年 8 月 24 日 看護カフェ
- ③平成 30 年 11 月 9 日 うんちカフェ
- ④平成 30 年 10 月 26 ～ 27 日 秋大医学部男鹿つながり隊カフェ
- ⑤平成 31 年 2 月 22 ～ 23 日 横手つながり隊カフェ

【令和元（平成 31）年度】

- ①平成 31 年 第 2、4 金曜日 ママカフェ
- ②令和元年 5 月 24 ～ 25 日 秋大医学部藤里つながり隊カフェ
- ③令和元年 9 月 26 日 多職種カフェ
- ④令和元年 10 月 25 ～ 26 日 秋大医学部仙北つながり隊カフェ
- ⑤令和元年 11 月 9 日 がんカフェ
- ⑥令和 2 年 2 月 7 ～ 8 日 秋大医学部にかほつながり隊カフェ

4. 暮らしの保健室

5. 認知症サポーター養成講座

▶ 1. 講演会

地域包括ケア・介護予防研修センター開設 平成26年度 キックオフ講演会 地域包括ケアにおける大学の役割 ～連携・人材開発～

地域包括ケア・介護予防研修センター開設にあたり、地域包括ケアシステムにおける大学の役割、連携、人材開発について高橋紘士先生（国際医療福祉大学大学院医療福祉分野教授）より講演いただいた。

日時▶ 2014年10月27日（月）
場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 大講義室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	保健師	10名
	教員	10名
	介護支援専門員	7名
	社会福祉士	4名
	行政職員	3名
	施設管理者	2名
	その他	6名

地域包括ケア・介護予防研修センター開設キックオフ講演会
地域包括ケアにおける大学の役割
～連携・人材開発～

とき、ところ
2014年10月27日（月）14:00～16:00
保健学科棟大講義室

プログラム

- 講演「地域包括ケアにおける大学の役割～連携・人材開発～」
高橋紘士先生 14:00～15:00
- 「地域包括ケア・介護予防研修センターのこれから」
中村順子（地域包括ケア・介護予防研修センター長）
15:00～15:30
- 質疑応答 15:30～16:00

演者 高橋紘士先生
国際医療福祉大学大学院医療福祉分野教授

略歴
・社会保障研究所、法政大、立教大教授を経て現職
・東京都社会福祉審議会委員長兼務
・国、地方公共団体で検討会審議会等の委員等を兼務
・支援付き住宅推進会議共同代表、ホームホスピス推進会議顧問を務める
・地域包括ケア研究会委員などを歴任

著書
「地域包括ケアシステム」「地域連携論」（いずれもオーム社）
「地域包括ケアシステム」（共著西村周三編 慶應大学出版会）など

事前申し込み不要・参加費無料
問い合わせ先：地域包括ケア・介護予防研修センター 教務 019-594-6557

- 【反 応】・介護関係に携わる職員のみでなく、健康増進を考えたり、市で施設を考えている方など、幅広く参加できるとより良いかなと感じる講演でした。ありがとうございました。
- ・どうやって進めたらよいか悩んでいたが、今回の研修で「自分が住みたい地域」を目指せばよいというので少し見えてきた気がする。
 - ・モデル地区を指定して具体的な実践を示してほしい。これが理想的な地域包括ケアであるという形を示してほしい。当施設でもできるだけ協力していきたいと思えます。
 - ・行政、医療関係者にもっと聞いてもらいたい内容でした。
 - ・地域包括ケアの構築は本当に難しい。私たちの共通理解、医療関係者も含めてまだ不十分。「ひとごと」の考え方の人もいます。多職種連携…難しいと思えます。うまくいく方法論など今後提示していただくと助かります。



平成27年度 **より効果的、実践的な学習を旨として
医学・看護教育におけるシミュレーション教育の
有効性—住民参加型模擬患者を用いて—**

医学・看護教育においてのシミュレーション教育の有効性を、住民参加型模擬患者を用いて実践している藤崎和彦先生(岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授)にご講演いただいた。

日時▶ 2015年5月8日(金)
場所▶ 秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階 多目的室

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】	医師	2名
	看護師	19名
	その他医療職	2名
	教員	17名
	学生	4名
	介護支援専門員	1名

秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター講演会
より効果的、実践的な学習を旨として
**医学・看護教育における
シミュレーション教育の有効性
—住民参加型 模擬患者を用いて—**

【開催日時】
平成27年5月8日(金) 18時～20時
【場所】
秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階 多目的室

【プログラム】
1. 講演 18:00～19:30
「医学・看護教育におけるシミュレーション教育の有効性
—住民参加型 模擬患者を用いて—」 藤崎 和彦先生
2. 質疑応答 19:30～20:00

申し込み不要
参加費無料

演者 藤崎 和彦 先生
岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授

経歴
・昭和58年3月 北海道大学医学部医学科卒業
・平成1年9月 大塚大学大学院医学研究科博士課程単位取得退学
・平成1年10月 奈良県立医科大学医学部助手
・平成13年4月 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター助教授
・平成17年4月 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター助教授
・平成18年7月 厚生労働省第101～106回医師国家試験試験委員(～平成24年3月)
・平成27年4月 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター センター長

著書
・「シミュレーション」医学教育入門/日本医学教育学会教材開発・小委員会編、医研出版社社、2011
・「医学教育日誌2010年録」日本医学教育学会編、医研出版社社、2010
・「医療コミュニケーション」実践研究への多面的アプローチ/藤崎和彦/榎本長博編著、医研出版社、2009年

問い合わせ先 地域包括ケア・介護予防研修センター
〒010-8543 電話:018(884)6557
秋田県秋田市本郷一丁目1番1号 E-mail:chika@hs.aitku.ac.jp

- 【反 応】・教養基礎教育を学習させるためのモチベーションを考えると、1年次からのシミュレーション教育は有効であると考えます。
- ・貴重な面白い講演を聴く機会となりました。模擬患者やコミュニケーション技術など関心を持つことが出来ました。ありがとうございました。
 - ・OSCEを通して、コミュニケーション能力を高めていくことは、最も医療の対象者に携わる看護職に重要だと感じた。ただ、これで出来た気にならないように注意しなければならないことも同時におさえなければなりませんね。
 - ・今日は大変興味深い講演会を開催していただき、ありがとうございました。
 - ・とても楽しく分かりやすいご講演でした。ぜひ次回以降はシミュレーション教育の実践についての継続的講演を希望します。
 - ・相手の立場に立って～「想像すること」の難しさを日々看護師たちを見ても痛感します。まずそれを養うためにはどうするかが課題です。
 - ・学生への関わり方、教育の姿勢について改めて振り返ることができました。また、患者さんへの関わり方についても改めて考えることが出来ました。もっと学生のニーズをよく考え、教育の方法を考えなければと感じました
 - ・学生の時の臨床実習の患者さんとのコミュニケーションという経験が、今の私にとってもプラスであったと痛感しました。「地域の生活者」として生活し、患者さんのことを想像できる材料を増やしていきます。



▶ 1. 講演会

平成27年度

秋田県における地域包括ケアシステムの構築に向けて ～先進事例「三方よし」から学ぶ～

高齢化率日本一の秋田県において、地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題である。地域包括ケアシステム構築の先進事例を学び、さらに秋田県内の多職種によるパネルディスカッションを開催することにより、地域包括ケアシステム構築の現在や今後について検討した。

日時▶ 2015年10月17日(土)
場所▶ 秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階 多目的室

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】	看護師	18名
	介護支援専門員	10名
	生活相談員	2名
	理学療法士	4名
	作業療法士	3名
	言語聴覚士	5名
	その他	64名

- 【反 応】・専門職ではなく、地域包括ケアシステムというものがどうもよく分からなかったのので来てみました。お話が難しいと感じる部分もありましたが、今受け止めきれていないことも、これからのヒントとして大事にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・「やれることからやれる人でまずやろう」マグマは低いところに流れる。格差、温度差あるけれど、志のあるものでまずやって行こうと、はじめてみようと思いを新たにしました。
 - ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・様々な立場のパネラーのからの意見を聞くことができ、秋田の課題を考えることができました。
 - ・講演も良かったし、パネルディスカッションはとてもためになりました。
 - ・多くの学び、気づきが得られました。本当にありがとうございました。
 - ・気概のある人が集まって、まずは取り組む。それぞれが日常、仕事で関わった患者さんに対して熱い思いを持った人たちと少しずつでも繋がっていくことが大事なんだと思う。その中で三方よし手帳のようなツール、フォーマットが必要と感じた。本日はありがとうございました。
 - ・とても勉強になりました。相談をしっかりとつないで行けるよう、知識・関係を強化して行きたいです。
 - ・多職種のみならず、一般市民への周知も必要であることを認識いたしました。
 - ・次から次とテンポのよい発言良かったです。
 - ・秋田は小さい地域で顔の見える関係がもっとできると思う。どうもありがとうございました。
 - ・顔の分かる関係づくりが大切だということをまずは理解した。

高齢化率日本一の秋田県において、地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題となっています。今回は、秋田県内の医療・介護・保健福祉の連携ネットワーク「三方よし研究会」会長の小澤雅博先生をお招きし、「三方よし」という内容で講演いただきます。また、秋田県内の医療・介護・保健福祉職の皆様と「秋田県内の地域包括ケアシステムの構築に向けて」というテーマでパネルディスカッションを開催いたします。ご参加の方へ、今後の秋田県内の地域包括ケアシステム構築について考えを深めたいと思います。

2015年10月17日(土)
13:30～16:45
参加費無料/事前登録不要
秋田大学医学部附属病院2階多目的室

【プログラム】
13:30～13:40 開会のあいさつ …… 中村 順子
13:40～15:10 基調講演「三方よしとは」 …… 小澤 雅博 氏
15:10～15:15 休憩
15:15～16:35 パネルディスカッション
「秋田県内の地域包括ケアシステム構築に向けて」

【パネリスト】
清水 豊樹 氏 (秋田大学医学部附属病院 医師)
奥野 直行 氏 (秋田県立中央センター 医師)
秋山 みどり 氏 (秋田県立中央センター 医師)
五十嵐 美幸 氏 (株式会社パブリックケア秋田病院等連携ステーション 看護師)
高橋 幸子 氏 (秋田県 福祉保健部長官補佐 保健師)
菅原 則次 氏 (医療法人 正和会 相談員)
高橋 敏弘 氏 (秋田県立リハビリテーション 精神科センター 作業療法士)
鎌田 貴典 氏 (特別養護老人ホーム 佐野院 理学療法士)
長塚 野一 氏 (特別養護老人ホーム リンデンバウム 作業療法士)
佐藤 大志 氏 (特別養護老人ホーム リンデンバウム 作業療法士)

16:35～16:45 閉会のあいさつ …… 見玉 英也 (秋田大学医学部附属病院)

問い合わせ先
秋田大学医学部附属病院 地域包括ケア・介護予防研修センター
E-mail: chi@chi.kita-u.ac.jp TEL: 018-841-4637



▶ 1. 講演会

平成28年度 「在宅医療」知っていますか？
家で最期まで療養したい人に
永源寺の地域まるごとケアから学ぶ

滋賀県東近江市永源寺地区で在宅看取りを支える「永源寺の地域まるごとケア」を実践している花戸貴司先生(東近江市永源寺診療所所長)を講師にお招きし、永源寺地区でのがんや認知症、寝たきりの方への在宅診療の実践についてご講演いただいた。

パネルディスカッションでは、秋田県で在宅医療を実践している方々と「秋田県における在宅看取りの今とこれから」について考えた。

日時▶ 2016年10月15日(土)

場所▶ 秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階 多目的室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	看護師	12名
	介護福祉関係	13名
	会社員	5名
	無職	11名
	主婦	9名
	その他	51名

秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター主催
平成28年度 在宅看取り講演会・パネルディスカッション

**「在宅医療」知っていますか？
家で最期まで療養したい人に
永源寺の地域まるごとケアから学ぶ**

日時 **2016年10月15日(土) 13:30~16:00**
会場 **秋田大学医学部附属病院 2階 多目的室**
秋田市広面字蓮沼44-2 ※お車でのご来場の方は、外来駐車場をご利用ください。

滋賀県東近江市永源寺地区の在宅看取りを支える「永源寺の地域まるごとケア」をご存知でしょうか？今回は、永源寺地区で外来診療の傍ら、がんや認知症、寝たきりの方への在宅診療を行っている花戸貴司先生をお招きし、花戸先生の取り組みや永源寺地区のケアについてご講演いただきます。
この機会に在宅医療・在宅看取りについて、考えてみませんか？

●第1部 講演
13時30分~15時00分
「永源寺の地域まるごとケア」
講師：花戸 貴司先生
(東近江市永源寺診療所 所長)

●第2部 パネルディスカッション
15時10分~16時00分
「秋田県における
在宅看取りの今とこれから」
パネラー：伊藤 伸一氏(伊藤医院 院長)
秋田県内の訪問看護師や
介護支援専門員の皆様 4名

入場 無料
申し込み 不要

助成：公益社団法人在宅医療助成 勇美記念財団
お問い合わせ 地域包括ケア・介護予防研修センター
TEL: 018-884-6557 又は 018-884-6544 E-mail: chiiki@hs.akita-u.ac.jp

▶ 1. 講演会

平成29年度

健康増進外来の取り組み ～指導しない糖尿病外来

岩手県で健康増進外来を開設し、活動を続けている佐藤元美先生。住民一人一人に寄り添い、住民の前向きな力を引き出し、「地域包括ケア」の概念を生み出した街について、佐藤先生の取り組みや、住民との関わりなどについてご講演いただいた。また、「聞き書き」の重要性や効果などについて、中村順子センター長との対談を行った。

日時▶ 2017年6月4日(日)

場所▶ 秋田拠点センターALVE 2階 多目的ホール

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】 医師	5名
看護師	9名
保健師	4名
理学療法士	4名
保健師	4名
その他	46名

【反 応】・楽しく参加させていただきました！

- ・患者一人一人にかかる診療時間がとれないなか、少しでも佐藤先生の診療スタイルを心掛けてみたいと思います。
- ・大変勉強になりありがとうございました。
- ・保健指導の考え方について、とても興味深かったです。また、地域で血圧や糖尿などで通院中の方と会うが、話の聞き方を変えて行こうと思いました。
- ・聞き書きといった言葉・内容をはじめて知りました。
- ・確かに現場でPtの話の内容がすごく自分の人生の参考になったり、勇気づけられたりすることがあります。
- ・お話がとても聞きやすく、上から目線ではない佐藤先生の仕事に対する姿勢が感じられるような講演でした。
- ・先生が話されていた内容は地域を密着した仕事をする者として、とても大事なことだと改めて感じました
- ・糖尿病については指導がメインと考えていたが、指導しない患者さまが考えられる関わりで変わっていく事を知り、勉強になった
- ・佐藤先生のような医師が増える事が秋田のさまざまなワーストを返上するひとつのリソースかも・・・と思いました。

参加無料

平成29年度 秋田大学大学院医学系研究科附属 地域包括ケア・介護予防研修センター主催 講演会

健康増進外来の取り組み ～指導しない糖尿病外来

興味ある方はどなたでもご参加下さい!!

2017年 (開場13:00)
日時 6月4日(日) 13:30-16:00
秋田拠点センターALVE 2階 多目的ホール
(秋田市東通仲町4番1号)

第1部 13:30～15:10
基調講演「健康増進外来の取り組み
～指導しない糖尿病外来」
講師: 佐藤 元美先生(一関市国民健康保険医療院) 佐藤 元美先生

第2部 15:20～16:00
対談「人は皆、自分力を持っている
聞き書きから学ぶこと」
佐藤 元美先生(一関市国民健康保険医療院) 中村 順子(地域包括ケア・介護予防研修センター) 中村 順子

お問い合わせ TEL : 018-884-6557
Email : chiiki@hs.akita-u.ac.jp



▶ 1. 講演会

平成29年度

「みんくるカフェ」の取り組みから ～『対話』が生み出す地域力

孫大輔氏（東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター）をお招きし、「みんくるカフェ」の取り組み、カフェ型ヘルスコミュニケーションについてご講演いただいた。講演後には秋田県内でもカフェ型ヘルスコミュニケーションを実践している医師、看護師、社会福祉士と孫氏とのパネルディスカッションを開催した。全国、秋田県でのカフェ型ヘルスコミュニケーションの実際の取り組みを専門職や地域住民の方々へ周知する機会となった。

日 時▶ 2017年10月28日（日）
場 所▶ 秋田大学本道記念会館

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 医師	2名
看護師	4名
作業療法士	6名
介護福祉職	6名
その他	12名

【反 応】

- ・地域での活動の差があると感じた。
- ・様々な取り組み→コラボによる広がり期待！
- ・いろいろな活動の紹介があり、今後の参考になった。
- ・孫先生のお話を聞いて良かったです。いろいろな視点で考えてみればいいと思いました。
- ・とても参考になりました。自分の地域でも気軽にやれそうな手ごたえを得ました。
- ・演劇を通じて、認知症などの症状や対応を見て学べるのはすごく参考になった。
- ・各方面での様々な取り組みを行っているのを知りました。特に学生のうちから地域での活動に驚きました。
- ・秋田県での多職種連携が活発に行われており、今後参考にしたいと思いました
- ・院内の取り組みでケアカフェを開催することになり参考にさせていただきたいです。
- ・院外に目を向けて行かないと、他者理解は出来ないと改めて感じました。
- ・孫先生のお話が現在の私たちの活動に結びつくものでしたので、非常に参考になりました。



平成30年度 「最期まで口から食べる」 ハンズオンセミナー

谷合久憲先生（秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院 糖尿病代謝内科医師、「NPO法人由利本荘にかほ市民の健康を守る会」）をお招きし、秋田県内のコメディカルを対象に摂食嚥下ケアのセミナーを開催した。

日時▶ 2018年5月12日（土）

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 第6講義室

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】 医師	……………	2名
看護師	……………	4名
作業療法士	……………	6名
介護福祉職	……………	6名
その他	……………	12名

【反 応】・今日学んだことを職場に活用できるよう頑張りたい

- ・手本を見せてほしかった
- ・なぜ良いのか悪いのかを説明してほしかった
- ・看護・介護が「食」に対してできるケアはたくさんあると感じました
- ・実際に介助される側になって初めて気が付くことができた
- ・実技も交えて、自分で実際にやってみることが一番勉強になる
- ・何度か勉強したことで、セミナーにくると新しく得られるものがある
- ・利用者様の立場になってケアをしていきたい ・先行期の大切さを学ぶことができてよかった
- ・無料で内容の濃いセミナーで大変勉強になった
- ・これまで実技について学ぶ機会がなかったのでためになった
- ・口や手が動かしにくいことが食べる事にこれ程影響していると感じられたセミナーだった
- ・食べることで大きく生活を変えられるのは凄いと思った
- ・とろみ水の作り方を体験できてよかった
- ・口腔期、咽頭期に障害がある方への介入方法も紹介してほしいと思った
- ・普段どれだけ無意識だったか反省した
- ・スライドも実技もとてもわかりやすく参考になった
- ・今まで行ってきた食事介助に足りない部分に気づくことができた
- ・実践につながる良い研修だった
- ・とろみ具合を考え直すきっかけになった
- ・食塊、スライス、舌に置く位置、姿勢を学べてよかった
- ・普段の食事介助ではきちんとしたやり方もわからずにおこなっていたので目からウロコだった
- ・患者の視点から観察の重要性に気が付いた
- ・今できることを正しい方法で精一杯やるしかない
- ・自分が思っていることと本日聞いたり体験してみても、違うことが多々あったと実感した
- ・自分が勤務している病院には認定看護師や言語療法士がいない中、摂食嚥下を行っており、そういった環境の中でもできる関わりについて詳しく教えてほしい

秋田大学医学部医学系研究科附属地域包括ケア・介護学研修センター主催
 摂食嚥下ケアについて学んでみませんか？
「最期まで口から食べる」ハンズオンセミナー
 参加無料 要申込
 5月12日(土) 13:30~15:00
 【日 程】 13:30~14:15 講義、14:15~15:00 実技

【講師】 谷合久憲氏 (秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院 糖尿病代謝内科 医師)
 小薮一弘氏 (弘前大学 理学療法士) 他
 企画：「最期まで口から食べる 秋田1」協議体 谷合 秀 (かほ市民の健康を守る会)

【会場】 秋田大学医学部 (本館センターバスター) 医学系研究棟 (総合研究棟) 4階 総6講義室

【対象】 秋田県内のコメディカルのみさま

【定員】 100名 (申込多数の場合は先着順)

【申込方法】 参加申し込みは下記方法で 締切は5月7日(月)
 FAX⇒ 表裏の申込用紙に必要事項を記入し FAX: 018-884-6557へ送信
 e-mail⇒ 題名を「ハンズオンセミナー参加希望」とし
 ①氏名 ②(当日連絡がつく)電話番号 ③所属施設 ④職種
 を明記の上 ⑤: chihai@hs.akita-u.ac.jpへメールを送信
 ※申込を待ちまして受付と致します。要決定通知の返信はございません。
 ※申込多数で受講をお断りする場合はご連絡させていただきます。

【各自持ち物】 筆記用具 ハンドタオル1枚 水または茶500ml
 ティッシュペーパー 食事行動に使うスプーン1本とティースプーン1本

【お申し込み】 お申し込みの際は 外県駐在者のご参加は、【無料】会場は医学部正門から入って 右側2号館棟(決断の自動ドア)です

*** お問い合わせ ***
 秋田大学 地域包括ケア・介護学研修センター
 TEL 018-884-6557
 〒010-8502 秋田県秋田市1-1-1

【案内図】 セミナー会場 医学部研究棟



▶ 1. 講演会

令和元年度

「がんと共に生きる サッポロビールの サバイバーが見つめる人生と日本のがん対策」

地域の保健医療関係者や住民と交流し、地域や集まったメンバーとのつながりを強化する

日 時▶ 2019年11月10日(日)

場 所▶ 秋田大学本道記念会館

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】 教員	3名
学校事務	1名
看護師	2名
会社員	3名
自営	1名
パート	1名
ケアマネ	2名
主婦	2名
無職	4名
合計	19名



- 【反 応】
- ・人生の目的と使命は何か考えていこうと思った
 - ・大変すばらしい内容で、もっとたくさんの人に聞いてもらいたかった
 - ・ガン経験者として生きる指針をいただいた
 - ・これからの人生に役立てたい内容だった
 - ・自分の可能性を信じ、弱さを受入れる、人と人とのつながりを大切にしようと思った
 - ・人生これからだなと思った
 - ・人間としてもっと勉強しなければいけないことが沢山あると気づかされた
 - ・大事な言葉をたくさんいただいた
 - ・心があたたかくなるような講演会だった
 - ・講演会後のトークセッションも有意義なものであった
 - ・講演会の内容は、首都圏でもなかなか聞くことのできない貴重な内容だった
 - ・もっと医療関係者にきいてもらいたい内容だった
 - ・がん対策の充実には医療者が当事者の声を聞くことが重要だと思った
 - ・こういう機会をもっと増やしてほしい



平成27年度

看護職のためのフィジカルアセスメント講座

在宅や施設での療養を支えるため、訪問看護師や高齢者福祉施設で勤務する看護師は重要な役割を担っている。看護師が身体状態を総合的にアセスメントし、医師への報告やケアなどの必要な対処につなげるフィジカルアセスメント能力を向上し、日々のケアの質の向上につなげる。

日時▶ 2015年10月3日～11月7日

場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室
シミュレーション教育センター

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】 看護師 …………… 19名
保健師 …………… 2名

【反 応】 ・実技があることで胸の動きがわかりました。

個別に指導があってよかったです。

- ・わかりやすい内容だったので、他の研修ではわからなかったことが今回は理解できました。
- ・心不全の患者さんを見ていたので、なぜその症状が出ていたのかななどを学ぶことができたので今後の観察に活かしていくことができます。
- ・具体的でわかりやすく、とてもためになりました。エコーは普段やることがないのですが、視点が増え、興味もわきました。腹部の聴診も意識して聞き分け、判断に役立つようにしたいです。
- ・外から見てわかること、実際の計測によって判明することがあることがわかりました。リハビリを行うときに、実践できるものもあったので行ってみたいと思います。
- ・普段なんとなくおかしいと感じていることを今回の受講を活かしてJCSを用いて報告していく事、予測される疾患も考慮してやっていきたいと思いました。

看護職のための フィジカルアセスメント講座

開催内容	講師
1.平成27年10月3日(土) 9時～12時 「呼吸器系アセスメント」	講師：秋田大学医学系研究科 佐竹 幹宏先生
2.平成27年10月19日(土) 9時～12時 「呼吸ケア」	講師：秋田大学医学系研究科 佐竹 幹宏先生
3.平成27年10月17日(土) 9時～12時 「循環器系アセスメント」	講師：秋田大学医学部附属病院 小山 崇 先生
4.平成27年10月14日(土) 9時～12時 「消化器系アセスメント」	講師：秋田大学医学系研究科 安藤 秀明先生
5.平成27年10月11日(土) 9時～12時 「関節・運動系アセスメント」	講師：秋田大学医学系研究科 岡田 泰司先生
6.平成27年11月07日(土) 9時～12時 「脳神経系アセスメント」	講師：秋田厚生医療センター 桑原 直行先生

開催場所 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室 (A-106)

対 象 秋田県内で勤務されている訪問看護師
高齢者福祉施設等の施設で勤務されている看護師 等

定 員 19名程度 定員として、すべての講座に出席できる方とさせていただきます。
ご都合により参加できない場合はご照会ください。

費 用 テキスト代：121円
※テキストは「実習でわかる看護のためのフィジカルアセスメント」(村上三彩/インターメディア)を参照いたします。お持ちでない方はご購入をお願いします。
※テキスト代は10月1日の初回受付時に集金させていただきます。

申込方法 別紙申込用紙にてFAX(018-884-4557)、または必要事項①(氏名)②連絡先③所属施設名④テキスト購入の有無)を明記の上、E-mailにてfill@lib.aki-u.ac.jpまで
お申し込みください。

締め切り 平成27年9月14日(月)

秋田大学医学部保健学科棟
地域・老年看護学実習室
〒99-8565
秋田県秋田市中区1-18-1
電話：018-884-4557
FAX：018-884-4558
Eメール：fill@lib.aki-u.ac.jp



▶ 2. 研修

平成27年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座 「医療につなぐ新しい介護の視点」

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2015年11月14日～12月5日

場 所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 7名
ホームヘルパー …………… 6名

- 【反 応】 ・日本の今後についても学ぶことが出来た。
・フィジカルアセスメントの必要性がわかった。
・事例検討はとても勉強になりました。
・いろいろな視点での観察やアセスメントが必要だと学ぶことが出来ました。
・食事（トロミ）について今まで思っていたことよりも違った形でとても良い内容でした。吸引についても仕事で活かせることが多くありました。
・清潔面ではいろいろ研修会で教わっていたが再確認できた。
・前立腺肥大についてよくわかった。失禁の種類についてあいまいだった部分が確認できた。
・以前に勉強していたが忘れることも多く、再度勉強することができ、大変良かったと思う。

秋田大学医学部保健学科棟地域包括ケア・介護学助研センター 主催
介護職のためのフィジカルアセスメント講座
「医療につなぐ新しい介護の視点」

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の標準モデルにおいては、医療・介護・予防の一体的な提供が求められ、介護職に「医療的マインド」をもって高度的な生活機能のアセスメントの内容を医療職に連携することが求められています。そこで、今回は生活行動別に「医療につなぐための介護の新しい視点」としてテーマで、介護職のためのフィジカルアセスメント講座を開催します。

開催内容
1. 平成27年11月14日(土) 14時～17時 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子先生
「総論」
2. 平成27年11月21日(土) 10時～13時 講師：地域包括ケア・介護学助研センター 中村 麗子
「食事」
3. 平成27年11月28日(土) 10時～13時 講師：地域包括ケア・介護学助研センター 津野台 恵
「清潔・移動」
4. 平成27年12月05日(土) 10時～13時 講師：地域包括ケア・介護学助研センター 藤田 智恵
「排泄」

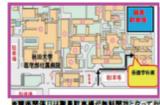
開催場所 医学系研究棟1階 地域包括ケア・介護学助研センター
対 象 秋田県内で勤務されている介護職 等
定 員 10名程度
※原則として、すべての講座に出席できる方を対象とさせていただきます。
※都合により変更できない開催日がある場合はご連絡下さい。

費 用 テキスト代
※テキストが未決定のため、決定次第、詳細金額を受講者の皆様にお知らせいたします。
※テキスト代は11月14日の前払入金時に現金させていただきます。

申込方法 別紙申込用紙に記載の上、FAX(018-884-4557)にて、
または必要事項(①氏名②連絡先電話番号③所属部署④住所⑤所属職種の⑥テキスト購入の旨)を明記の上、E-mailにて018(18)884-4111にてお申し込みください。

締め切り 平成27年11月06日(金)

問い合わせ先
秋田大学医学部保健学科棟
地域包括ケア・介護学助研センター
〒99-8565
秋田県秋田市長一丁目1番1号
電話 018-884-4557 FAX 018-884-4557
電子メール 018(18)884-4111



※開催場所は(1)秋田県秋田市長一丁目1番1号秋田大学医学部保健学科棟1階(2)秋田県秋田市長一丁目1番1号秋田大学医学部保健学科棟1階(3)秋田県秋田市長一丁目1番1号秋田大学医学部保健学科棟1階です。



平成27年度

介護支援専門員のための ファシリテーションスキルアップ講座

地域ケア会議やサービス担当者会議では、地域住民や専門職をファシリテートしながら進行することが介護支援専門員に求められている。そのようは職種の方々のために、ファシリテーションスキルの向上やコミュニケーションスキルの向上を目指し、講座を開催する。

日時▶ 2015年8月29日(土)

場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護支援専門員 …………… 21名
保健師 …………… 2名

- 【反 応】
- ・すぐに全部は実践する自信はないのですが、1つでも心がけて頑張りたいと思います。
 - ・今までやってきた会議で自分でうまくいったと感じた理由、うまくいかなかったと感じた理由が分かった。気づくことができた。
 - ・話しやすいレイアウト、見える化、自分のスキルの低さを思い知った。頑張ろうと思った。
 - ・ファシリテーションについてさらに学びたい深めたいとおもいました。
 - ・見える化が大切と実感しました。
 - ・会議の持ち方にヒントが数多くありました。
 - ・紙に書くことで整理されわかりやすくなりました。
 - ・色の使い方の重要性・担当者会議、職場での会議で実践していきたいと思いました。
 - ・ファシリテーションの4つのスキルを知ること、今までの会議の反省と今後の会議で活用させていただきます。

介護支援専門員のための
ファシリテーションスキルアップ講座

開催日時 2015年8月29日(土) 10:00~15:00

開催場所 秋田大学医学部 保健学科棟
1階 地域・老年看護学実習室(A-106)

対象 秋田県内で勤務されている
介護支援専門員の方

受講料 1,000円(当日現金徴収します)

定員 30名 (※申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。)

講師 中西 百合 先生
(仙台市青葉区保健福祉センター
障害高齢介護係長)

プログラム

09:30~10:00 受付
10:00~12:00 ファシリテーションについての講義
12:00~13:00 休憩 (昼食は持参)
13:00~15:00 ファシリテーションを活用した演習

※申し込みの内容につきましては一部変更の可能性がございます。

申し込み方法 FAXまたはE-mail

FAX → 別紙申込用紙に必要事項を記入の上、
FAX番号: 018-884-6557までお申し込みください。

E-mail → 下記項目を明記し、chiki@hs.akita-u.ac.jpへお申し込みください。
①氏名 ②連絡先(電話番号またはE-mailアドレス) ③所属施設名

※締め切りは、8月17日(月)とさせていただきます。

【主催】 秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター
TEL&FAX:018-884-6557 E-mail:chiki@hs.akita-u.ac.jp

▶ 2. 研修

平成28年度

地域で働く医療職のための フィジカルアセスメント講座

在宅や施設での療養を支えるため、訪問医療や高齢者福祉施設で勤務する医療職は重要な役割を担っている。地域で活躍する医療職が身体状態を総合的にアセスメントし、医師への報告やケアなどの必要な対処につなげるフィジカルアセスメント能力を向上し、日々のケアの質の向上につなげる。

日時▶ 2016年6月4日～7月23日

場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室
秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
シミュレーション教育センター

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 看護師 …………… 31名
作業療法士 …………… 2名
理学療法士 …………… 3名

- 【反 応】・在宅リハでも呼吸評価の視点が大事だと改めて気づきました。
・改めてフィジカルアセスメントの大切さを気づかせてもらいました。ありがとうございました。
・訪問での看護は未経験で自信のないまま業務してきましたが、アセスメントの実演でよく理解できて自信がついた。
・実技があり説明しながらでわかりやすかった。
・脳卒中など施設で発症する機会があると思うので今日受講したことを頭に入れて活動したいと思います。
・反射についてもこれまではうっすらとした知識しかなく、今回の講座で知らされたことも多かった。
・どのような選択でも本人や家族が決めたことであれば納得されると実感しました。

秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室 (A-110) または、医学部シミュレーション教育センター

対象 秋田県内で勤務されている在宅医療・地域医療に関わる医療職の方 (看護師・保健師・作業療法士・理学療法士・薬剤師等)

定員 20名程度 両すべての講座に出席できる方を優先させていただきますが、ご都合により参加できない日時がある場合も参加可能で予めご依頼ください。

費用 学費無料 1,120円 参加費は「授業にかかる授業料のためのフィジカルアセスメント」課上3割/インターネット料を徴収いたします。お持ちでない方はご購入をお願いします。 学費無料は7月23日の初回受付時に集金させていただきます。

申込方法 別紙申込用紙にてTEL:018-834-0557、または必要事項を記載した連絡先住所宛郵便物(必ず学費納入の旨)を明記の上、Eメールにてh181@h181.ac.jpまでお申し込みください。

締め切り 平成28年5月27日(金)

秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室
シミュレーション教育センター
〒991-8502
秋田県秋田市中区1-18-1
電話 TEL:018-834-0557 FAX:018-834-0557
Eメール TEL:018-834-0557 FAX:018-834-0557
URL: http://www.h181.ac.jp



▶ 2. 研修

平成28年度
介護職のためのフィジカルアセスメント講座（秋田大学）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2016年11月5日（土）

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
 地域包括ケア・介護予防研修センター（暮らしの保健室）

事業実施効果▶

① 全 体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 19名
 介護支援専門員 …………… 1名
 相談員 …………… 1名
 その他 …………… 2名

- 【反 応】・医療現場との情報共有について、どのタイミングで報告したらよいか悩んでいました。報告の仕方についてもSBARを基本として自分の頭の中で整理して行う事でわかりやすくなるように思いました。
- ・医療職へ伝える時のポイント、伝え方が分かった。今までは何から伝え、どこまで伝えというのが曖昧だった。
 - ・講座を受講する前はしっかりしたことが分らなかった。受講後は詳しく教えてくれ、しっかりわからなかった事が分かりました。すごく勉強になりました。
 - ・日頃、気づきからアセスメント、原因分析を行い、どこにつなぐかどんなふうにつなぐのかを頭で考えていたが、再度整理することができ医療につなぐための報告についての根拠に自信が持てた。
 - ・具体的にSBARを理解できたと思います。緊急時に的確に伝えることが大事だと思いました。
 - ・医師、看護師との関わり方、連絡方法等が分かった。



秋田大学医学部医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター 主催
 平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の働き方改革においては、医師・介護・看護の一体的な業務が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療側に伝達することが求められています。
 介護職の習得の中には、事業者側の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないでしょうか？
 そこで、今回は生活行為別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメント（身体状態の評価）の視点から講座を開催したいと思います。

開 催 内 容
 平成28年11月05日（土） 09:00～16:00
 09:00～12:00 「総 論」
 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美穂子先生
 13:00～16:00 「演 習」
 講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ
 ※事前検診や、生活行為別に演習を行います

開 催 場 所 秋田大学大学院医学系研究棟1階地域包括ケア・介護予防研修センター
対 象 県内各地で勤務されている介護福祉士（資格保有の有無は問いません）等
定 員 20名程度（先着順）
費 用 無 料
申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX(018-884-8557)にて、お申し込みください。※受講者へは、後日必要書類を送付いたします。

締め切り 平成28年10月21日（金）

お問い合わせ先
 秋田大学医学部医学系研究棟
 地域包括ケア・介護予防研修センター
 〒991-8501
 秋田県秋田市長瀬 1-1-1
 電話：018-884-8557（代）018-884-8557
 ファクス：018-884-8557

平成28年度
介護職のためのフィジカルアセスメント講座（北秋田市）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2017年1月29日（日）
 場 所▶ 北秋田市 北秋田市交流センター講堂

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 7名
 社会福祉士 …………… 2名
 介護支援専門員 …………… 2名
 その他 …………… 3名

【反 応】 ・これから地域包括はどういった役割になるのか理解できた。

- ・最初は正直どういうことかよくわからなかったが、受講してみると介護職から医療職への連携の重要さが確認できた。
- ・フィジカルアセスメント、医療的マインドについて理解できました。
- ・医療的な知識（イレウスや発赤等）を学んだことで福祉からの視点だけでなく、医療的な視点も含めて今後利用者の方と接していきたい。
- ・気づきの専門性、視点を事業所内で共有できる体制を作りたいと思います。不安の中対応している職員もいるので。
- ・観察や気づきの大切さを改めて感じました。
- ・観察力がいかに大事であるか認識できた。
- ・訪問介護の役割は介助だけでなく、いろいろな場面で大切なことが分かりました。観察のポイントがつかめてよかったです。
- ・現場を離れて10年以上経過していたので、自分の振り返りになれた。



秋田大学医学部研究科高齢地域ケア・介護学研センター 主催

平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
 ～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の標準モデルにおいては、医療・介護・予防の一体的な提供が求められ、介護職に「医療的マインド」をもち、身体的な生活機能のアセスメントの内容を医療職に伝達することが求められています。
 介護職の習得の中には、標準モデルの介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれている方も多く見られます。そこで、今回は生活行為別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療に不可欠な生命体征のような観点を持った介護してほしいのか、フィジカルアセスメント（身体状態の評価）の視点から講座を開催したいと思います。

期 間 内 容
 平成29年1月29日（日）09：00～16：00
 09：00～12：00 「総論」
 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美帆子先生
 13：00～16：00 「演習」
 講師：地域包括ケア・介護学研センター スタッフ
 実事例検討や、生活行為別に演習を行います

開催場所 北秋田市交流センター1階 講堂（北秋田市材木町2-2）

対 象 北秋田市で勤務されている介護福祉士（資格保有の有無は問いません）等

定 員 20名程度（先着順） 費 用 無 料

申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX(018-884-8557)にて、お申し込みください。
 ※受講者様へは、後日必要書類を送付いたします。

申し込み締め切り 平成29年1月17日（火）

問い合わせ先
 秋田大学医学部研究科 平成29年1月29日（日）開講
 地域包括ケア・介護学研センター 電話：018-884-8557 FAX：018-884-8557
 〒991-8501 秋田県北秋田市材木町2-2 電話：018-884-8557

会場 秋田大学交流センター
 協力 北秋田市地域包括ケアセンター

平成28年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座（横手市）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2017年3月11日（土）
場 所▶ 横手市 朝倉公民館（あさくら館）

事業実施効果▶

① 全 体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 6名
ホームヘルパー …………… 5名
社会福祉士 …………… 1名
その他 …………… 2名

- 【反 応】 ・利用者にも目を耳を傾ける。
・少しの変化でも医療職につないでも大丈夫って言っていただいて安心しました。
・現場では「こんなことで受診して・・・」と言われることもあります。同じような事が二度三度とあって、オオカミ少年のようになってしまう事もあります。昔よりは介護と医療の溝は浅くなったように思いますが、まだまだうまく連携が取れないことも多いのも事実です。
・医療的なマインドを持ち仕事する。

秋田大学医学系研究科地域包括ケア・介護予防研修センター 主催

平成28年度 介護福祉員のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の「柱林モデル」においては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメント（身体状態の評価）の内容を医療側に伝達することが求められています。

介護職の皆様の中には、療養者の介護において「これは医師や看護師に報告すべきことなのだろうか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないでしょうか？
本講座では生活行為別に「医療につなぐための新しい介護の視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればよいのか、フィジカルアセスメントの視点から解説いたします。

【開催内容】
平成29年3月11日（土） 9:30～16:00
9:30～12:00 「総論」 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子 先生
13:00～16:00 「演習」 講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ
※事例検討や、生活行為別に演習を行います

【開催場所】 朝倉公民館/あさくら館
横手市朝倉町 6-38

【対 象】 県南地区で勤務されている介護福祉職等
（資格の有無は問いません）

【受講料】 無料

【定 員】 20名程度（先着順）

【申込方法】 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、
FAX（018-884-6557）にて、
お申込みください。

【服 装】 特に指定はありません

【持 ち 物】 筆記用具、普段業務で使用している名札

【申込締切】 平成29年2月28日（水）

【問い合わせ先】 〒010-8543
秋田大学医学系研究科地域包括ケア・介護予防研修センター
秋田県秋田市長瀬一丁目1番1号
電 話 & FAX：018-884-6557
メール：chikawa@sakura-u.ac.jp 担当：佐藤
共催 秋田大学地域共生センター
協力 横手市健康福祉部 地域包括ケアセンター / 秋田大学横手分校

▶ 2. 研修

平成28年度 研修会「安全な移動・移乗」

介護職が日常的に行う介助行為の「移動」「移乗」については、転倒のリスクも伴うため、介助に不安を抱えている介護職も多い。また、介助動作が原因で腰痛を引き起こすなど、自身の身体に負担がかかることもある。本講座では、理学療法士、作業療法士が講師となり、「ボディメカニクス」や介助用具を用いた方法を、実技中心に行う。身体への負担を軽減し、事故のリスクが少ない移動・移乗介助の方法を習得し、日々の業務にすぐに実践できるようにする。

日 時▶ 2016年7月9日(土)

場 所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護支援専門員 …………… 21名
保健師 …………… 2名

秋田大学 地域包括ケア・介護予防研修センター主催
研修会「安全な移動・移乗」
日時：2016年7月9日(土) 9時～12時
場所：秋田大学医学部保健学科3階B棟
臨床理学療法実習室1
内容：09時00分～10時30分 安全な移動について
10時40分～12時10分 安全な移乗について
12時10分～12時30分 福祉用具紹介・使用体験
(サンメディカル 吉高徳二氏)
講師：秋田大学大学院医学系研究科 津軽谷 恵・齋藤 明

対象者
秋田県内で高齢者の介護・介助に従事されている方(看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士など)

人数
20名(先着順)
※人数が20名に達した時点で受付を終了いたします。

申し込み
別紙の申し込み用紙に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。
FAXでの申し込みを優先して、要領決定とさせていただきます。
(要領決定後のキャンセルはありません)
人数の確保で受付をお断りさせていただく場合がございます。6月24日(金)までに連絡をお願いします。

申し込みの方法
上記は郵送受付となりますので、ご利用ください。

受講者の皆様へ
当日は、9時までに秋田大学医学部保健学科棟 臨床理学療法実習室1へお越しください。
服装 ジャージ等の動きやすい服装
持ち物 内着、筆記用具、筆記用紙が使用されている方

地図
秋田大学 医学部保健学科棟 3階B棟
秋田大学 地域包括ケアセンター
秋田大学 看護学実習室

問い合わせ先
秋田大学大学院医学系研究科 地域包括ケア・介護予防研修センター
018-884-6557, chiki@hs.akta-u.ac.jp



▶ 2. 研修

平成28年度 退院支援スキルアップ養成プログラム

秋田県は高齢化率、人口減少率、生活習慣病による死亡率が47都道府県中常に上位であり、過疎化に伴う医療及び介護サービスの偏在が顕著な状況にあるなど、退院支援を行う上での課題も地域性、多様化していることが予測されます。そこで、まずは県内二次医療圏のうち秋田市を圏域として、地域特性をふまえた医療および介護の実状と施設間、職種間連携における課題分析を基に、病院勤務看護師を対象とした退院支援のスキル向上のための研修プログラムを平成28年度より附属病院看護部と共催で開催しています。

日 時▶ 11月18日(土) 9時～17時
12月16日(土) 8時50分～14時20分(大学院特別講義)
1月20日(土) 9時～17時
2月17日(土) 9時～12時

※この他に、1月9日～2月9日のうち1日間の秋田市内訪問看護実習

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 秋田大学医学部医学附属病院 12名
中通総合病院 …………… 2名
市立秋田総合病院 …………… 2名
秋田赤十字病院 …………… 2名
秋田厚生医療センター ……… 2名



▶ 2. 研修

平成28年度 **お酒と上手に付き合う講座**

一般住民を対象に健康なアルコールとの付き合い方を知り、参加者同士の交流を通じて、健康的な選択と行動ができるよう学ぶ機会とした。

日 時▶ 2017年1月25日(水)
2月 8日(水)
2月14日(水)
2月22日(水)
3月 8日(水)
3月15日(水)

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全 体 10名



▶ 2. 研修

平成29年度

地域で働く医療職のための フィジカルアセスメント講座

在宅や施設での療養を支えるため、訪問医療や高齢者福祉施設で勤務する医療職は重要な役割を担っている。地域で活躍する医療職が身体状態を総合的にアセスメントし、医師への報告やケアなどの必要な対処につなげるフィジカルアセスメント能力を向上し、日々のケアの質の向上につなげる。

日時▶ 2017年6月10日～7月22日

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
シミュレーション教育センター

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 看護師 …………… 23名
作業療法士 …………… 3名
理学療法士 …………… 6名
保健師 …………… 1名
薬剤師 …………… 3名

- 【反 応】
- ・得た情報をそのまま伝達するのではなく、一度自分でアセスメントする必要性を理解できました。
 - ・在宅医療について大変参考となるご講話を聴くことが出来ました。症例についてグループワークすることで問題点や解決策を勉強することができ、今後の活動に活かしたいと思います。
 - ・特養に勤務しているが、そこでの体調の変化への対応に活かしていきたい。救急車を呼ぶか迷ったりすることがあったので、今回学んだことを活かし、しっかりアセスメントしていきたい。
 - ・数をこなしてスクイージングが出来るようになりたい。実践しながら先生のアドバイスも直接いただき本当に参考になりました。
 - ・心疾患と呼吸器の状態に関連あることをよく理解できました。
 - ・実技指導をいただきわかりやすく、今後の仕事も場面に活かしたいと思います。

平成29年度 地域で働く医療職のための
フィジカルアセスメント講座

分科別ごとに臨床と実技を交えながら、在宅で求められるフィジカルアセスメントについて、実践的な内容の講義を開催します。

- 6月10日(土) 9時～16時 (休憩12時～13時)
『消化器系アセスメント』 講師: 秋田大学 安藤 秀明先生
『在宅に求められる総合アセスメント』 講師: 秋田住診クリニック 市原 利晃先生
- 6月17日(土) 13時～16時
『脳神経系アセスメント』 講師: 秋田大学 大久保 敬也先生
- 7月1日(土) 9時～16時 (休憩12時～13時)
『呼吸器系アセスメント』 講師: 秋田大学 佐竹 純宏先生
『呼吸ケア』 講師: 秋田大学 佐竹 純宏先生
- 7月22日(土) 9時～16時 (休憩12時～13時)
『循環器系アセスメント』 講師: 秋田大学 小山 崇 先生
『関節・運動系アセスメント』 講師: 秋田大学 筒田 恭司先生

開催場所 秋田大学医学部医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター
または、地域包括ケア・介護予防研修センター
※ 秋田県内で勤務されている在宅医療・地域医療に携わる医療職の方
(看護師・保健師・作業療法士・理学療法士・薬剤師等)

定 員 23名程度 ※定員以上の参加に出席できる方を優先させていただきます。
ご都合により参加できない日時がある場合は参加可能であればご返信ください。

申込方法 別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX(011-831-8551)にてお申し込みください。

費 用 アキスト代 税込1,217円 (希望者のみ) ※実施日は1月1日の初回受付時
アキストとは「講座でわかる医療のためのフィジカルアセスメントアドバンス」(インターミ
ディ)が対象となります。お持ちでない方は研修センターで申込みさせていただきます。
アキスト購入の申請を申込用紙にご記入ください。各自でご準備いただいても結構です。

開催日時 平成29年5月26日(金)

秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター
〒010-8502
秋田県秋田市長瀬1-1-1
電話: 011-831-8551(受付) 011-831-8552(総機)
FAX: 011-831-8551(受付) 011-831-8551(総機)



平成29年度
介護職のためのフィジカルアセスメント講座（秋田大学）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日時▶ 2017年10月21日（土）
場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
 地域包括ケア・介護予防研修センター（暮らしの保健室）

事業実施効果▶

①全体

- 【内 訳】 介護福祉士 …………… 7名
 ホームヘルパー …………… 1名
 社会福祉士 …………… 3名

【反 応】・医療職に報告するポイントを理解することができた。

- ・フィジカルアセスメントとは何か、具体的に勉強出来ました。また、医療職への連携の仕方等も大変よく理解できました。
- ・事例検討が勉強になりました。今後は医療的な知識が必要になると強く感じました。
- ・看護師に伝える時点で私の心配しすぎかな？と感じることもありましたが、迷わず五感で感じたことは伝えていこうと思います。
- ・SBARを初めて知り、今後の介護の現場で慌てず、要点をまとめることが出来ると思います。
- ・どこまで報告すればよかったかあいまいな点があったが、大事な要点を学ぶことができ、職務に活かしていきたい。

秋田大学医学部医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター 主催
 平成29年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の「基本科モデル」においては、医療・介護・予防の一体的な連携が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活課題のアセスメント（身体状態の評価）の対応を期待されることになってきています。

介護職の研修の中には、療養者の介護において「これは医療や看護師に報告すべきことなのだろうか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないでしょうか？
 本講座では生活行動別に「医療につなぐための新しい介護の視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメントの視点から解説いたします。

【開催内容】
平成29年10月21日（土）9:30～16:00
 9:30～12:00 「総論」 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子 先生
 13:00～16:00 講師：地域包括ケア・介護予防研修センタースタッフ
「演習」 ※事例検討や、生活行動別に演習を行います

【開催場所】 秋田大学医学部医学系研究棟
 地域包括ケア・介護予防研修センター
 （医学系研究棟1階）

【対 象】 秋田県内で勤務されている介護福祉士等
 （資格保有の有無は問いません）

【受講料】 無料
 【定 員】 20名程度（先着順）
 【申込方法】 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、
 FAX（018-884-6557）にて、
 お申込みください。

【服 装】 特に指定はありません
 【持 ち 物】 筆記用具、普段業務で使用している名札

【申込締切】 平成29年10月13日（金）

【問い合わせ先】 〒010-8543
 秋田大学医学部医学系研究棟
 地域包括ケア・介護予防研修センター
 電話：018-884-6557
 メール：of-care@akita-u.ac.jp 担当：佐藤



平成29年度
介護職のためのフィジカルアセスメント講座（能代市）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2017年11月8日（水）
場 所▶ 能代山本広域交流センター

事業実施効果▶

① 全 体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 7名
ホームヘルパー …………… 5名
社会福祉士 …………… 1名
その他 …………… 1名

- 【反 応】
- ・あまり聞いたことがないフィジカルアセスメントを学ぶことが出来て良かった。
 - ・どういふことを適切に伝えるかわかった。（その人の介護の利用の仕方や病歴）
 - ・介護に対する見方が変わった。医療的な知識を持って利用者様と関わっていきたい。
 - ・もっと医療的な知識を勉強したいと思った。
 - ・超高齢化社会になり介護職員の重要性・SBARを要点をまとめて伝える内容を伝えるための知識も大切だと感じました。
 - ・事例を使った報告など参考になった。職場でも行ってみたい。

秋田大学医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター 主催

平成29年度 介護福祉職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきています。厚生労働省の「総務省モデル」においては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメント（身体状態の評価）の内容を医療職に伝達することが求められています。
介護職の階層の中には、喫煙者等の介護において「これは医師や看護士に報告すべきことなのだろうか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないのでしょうか？
本講座では生活場別に「医療につなぐための新しい介護の視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメントの視点から解説いたします。

【開催内容】
平成29年11月8日（水） 9：30～16：00
9：30～12：00 「総論」 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美咲子 先生
13：00～16：00 「演習」 講師：地域包括ケア・介護予防研修センタースタッフ
※事例検討や、生活場別に演習を行います

【開催場所】 能代山本広域交流センター
能代市宇海路3番地2

【対 象】 東北地区で勤務されている介護福祉職等
（資格の有無は問いません）

【受講料】 無料
【定 員】 20名程度（先着順）
【申込方法】 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、
FAX（018-884-6557）にて、
お申込みください。
【服 装】 特に指定はありません
【持 ち 物】 筆記用具、普段業務で使用している名札

【申込締切】 平成29年10月27日（金）

【問い合わせ先】 〒010-8543
秋田大学医学系研究科附属 秋田県秋田市本道一丁目1番1号
地域包括ケア・介護予防研修センター 電話&FAX：018-884-6557
メール：chika@rakita-u.ac.jp 担当：佐藤 尚徳 秋田大学医学系研究科附属 地域包括ケアセンター
協力：能代市市民福祉センター 能代市市民福祉センター 能代市市民福祉センター

平成29年度
介護職のためのフィジカルアセスメント講座（大仙市）
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2017年12月7日（木）
 場 所▶ 大仙市大曲交流センター

事業実施効果▶

① 全 体

【内 訳】	介護福祉士	17名
	ホームヘルパー	2名
	介護支援専門員	2名
	その他	2名

- 【反 応】・利用者の状態変化があった場合、看護師への報告の仕方がいかに重要であるかが少しでも理解することが出来た。
- ・今日学んだことを職場で活かしたいと思います。
 - ・いつも何気なく行っていることをフィジカルアセスメントとして視点を変えて考えてみるといろんな要因だったり何が大事なのか分かりやすくなったように感じました。参加できてよかったです。
 - ・身近にいる私たち介護職が医療や看護への橋渡しや連携に大きな役目を持っていると感じました。
 - ・緊急性のある状態と様子観察の状態の見極めをしっかり行い、適切に報告する必要があると思った。観察力がとても重要だと思った。
 - ・状況を報告する際、Rの部分が欠けていることが多かったので今回の研修を参考にやってみようと思います。
 - ・視点がさらに広がったと思います。皆さんの意見もとても勉強になりました。
 - ・観察や報告のポイントがよく分かった。
 - ・職場での内部研修等を通して統一する必要があると感じた。SBARを活用したい。

秋田大学医学部研究科地域医療ケア・介護予防研修センター 主催
 平成29年度 介護福祉士のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
 ～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の「給付金改革」においては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活課題のアセスメント（身体状態の評価）の対応を医療職に伝達することが求められています。

介護職の研修の中には、療養者の介護において「これは医師や看護師に報告すべきことなのかどうか」と悩まれた経験がある方も多くはないでしょうか？
 本講座では生活行為別に「医療につなぐための新しい介護の視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにどのような視点を持って介護すればよいのか、フィジカルアセスメントの視点から解説いたします。

【開催内容】
 平成29年12月7日（木） 9:30～16:00
 9:30～12:00 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子 先生
「総論」
 13:00～16:00 講師：地域包括ケア・介護予防研修センタースタッフ
「演習」 ※事例検討や、生活行為別に演習を行います

【開催場所】 大仙市大曲交流センター
 大仙市大曲の山出町2丁目番53号
 【対 象】 県南地区で勤務されている介護福祉士等
 （資格の有無は問いません）

【受講料】 無料
 【定 員】 20名程度（先着順）
 【申込方法】 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、
 FAX（018-884-6657）にて、
 お申込みください。
 【服 装】 特に指定はありません
 【持 ち 物】 筆記用具、普段業務で使用している名札

【申込締切】 平成29年11月27日（月）

【問い合わせ先】 010-8543
 秋田大学医学部研究科地域医療ケア・介護予防研修センター
 秋田県秋田市本郷一丁目1番1号
 電話/FAX: 018-884-6657
 メール: hokai@med.nu.ac.jp 担当: 佐藤

共催 秋田大学医学部研究科地域医療ケア・介護予防研修センター
 協賛 大仙市健康福祉部 地域包括ケア推進センター



▶ 2. 研修

平成29年度

地域で働く相談支援業務者のための ファシリテーションスキルアップ講座

地域ケア会議やサービス担当者会議では、地域住民や専門職をファシリテートしながら進行することが介護支援専門員や地域包括支援センター職員に求められている。そのようは職種の方々のために、ファシリテーションスキルの向上やコミュニケーションスキルの向上を目指し、講座を開催する。

日時▶ 2017年9月23日(土)

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	介護支援専門員	10名
	看護師	1名
	保健師	1名
	生活相談員	1名

- 【反 応】・グループメンバーの役割があることで全員の参加への意識が高まることが分かった。
- ・ファシリテーターは発表者と兼ねてはいけないと思った。
 - ・人の話をくることが大事だと改めて思いました。
 - ・みんなの意見と合意形成への声かけや聴く事への意識を向上できるような心がけたいと思います。
 - ・聴く力と引き出す力・皆の意見をよく聞くと言う事が大事であることがわかり良かったです。
 - ・合意形成するための準備、雰囲気も重要と思った。

平成29年9月23日(土)開催
地域で働く相談支援業務者のための
ファシリテーション
スキルアップ講座
講師 小山内 世貴子先生
対象:地域で働く相談支援業務に携わっている方々
(介護支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師等)
参加申し込みは裏面のFAX専用申し込み用紙で!
申し込み締め切りは
9月15日(金)
お問い合わせは下記までご連絡ください
地域包括ケア・介護予防研修センター
☎018-884-6557 ☐chiki@hs.akita-u.ac.jp



平成29年度 研修会「安全な移動・移乗」

介護職が日常的に行う介助行為の「移動」「移乗」については、転倒のリスクも伴うため、介助に不安を抱えている介護職も多い。また、介助動作が原因で腰痛を引き起こすなど、自身の身体に負担がかかることもある。本講座では、理学療法士、作業療法士が講師となり、「ボディメカニクス」や介助用具を用いた方法を、実技中心に行う。身体への負担を軽減し、事故のリスクが少ない移動・移乗介助の方法を習得し、日々の業務にすぐに実践できるようにする。

日 時▶ 2017年8月5日(土)

場 所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 11名
ホームヘルパー …………… 8名

【反 応】・日頃の利用者の方とのことを考えて行っていきたい。

- ・基本を振り返ることができたので移乗時の重心を考えて明日から試したい。
- ・まだ介護職に就いて2か月くらいですがすべてが身に着けることが出来たら良いなおもった。
- ・自分がいかにボディメカニクスを利用せず、力任せの介護をしていたかについて気づかされた。

秋田大学 地域包括ケア・介護予防研修センター主催
研修会「安全な移動・移乗」
日時：2017年8月5日(土) 9時～12時
場所：秋田大学医学部保健学科 1階
地域・老年看護学実習室
内容：09時00分～10時30分 安全な移動について
10時40分～12時10分 安全な移乗について
講師：秋田大学大学院医学系研究科 津野谷 恵・齋藤 明

対象者
秋田県内で高齢者の医療・介護に従事されている方(看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士など)

人数
20名(先着順)
※人数が少なすぎた場合はキャンセルとなります。

申し込み
別紙の申し込み用紙に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。
FAXでの申し込みを多くして、要領決定とさせていただきます。
【研修会参加費の減免(おまかせ)】
人数の確保で要領をお取りさせていただく場合がございます。7月27日(木)までに要領をお取りいただけます。

受講者の皆様へ
当日は、9時までに秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室へお越しください。
移動：階梯、エレベーター等の動きやすい服装
持ち物：筆記用具、筆記用具、筆記用具で使われている名札

地図
秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

問い合わせ先
秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター
018-884-6557、chiko@hs.akita-u.ac.jp



平成29年度 退院支援スキルアップ養成プログラム

秋田県は高齢化率、人口減少率、生活習慣病による死亡率が47都道府県中常に上位であり、過疎化に伴う医療及び介護サービスの偏在が顕著な状況にあるなど、退院支援を行う上での課題も地域性、多様化していることが予測されます。そこで、まずは県内二次医療圏のうち秋田市を圏域として、地域特性をふまえた医療および介護の実状と施設間、職種間連携における課題分析を基に、病院勤務看護師を対象とした退院支援のスキル向上のための研修プログラムを平成28年度より附属病院看護部と共催で開催しています。

- 日 時▶** 11月18日(土) 9時～17時
12月16日(土) 8時50分～14時20分(大学院特別講義)
1月20日(土) 9時～17時
2月17日(土) 9時～12時
※この他に、1月9日～2月9日のうち1日間の秋田市内訪問看護実習
- 場 所▶** 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター
秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 秋田大学医学部医学附属病院 …	12名
中通総合病院 ……………	2名
市立秋田総合病院 ……………	2名
秋田厚生医療センター ……………	1名



▶ 2. 研修

平成29年度 **お酒と上手に付き合う講座**

一般住民を対象に健康なアルコールとの付き合い方を知り、参加者同士の交流を通じて、健康的な選択と行動ができるよう学ぶ機会とした。

日 時▶ 2018年1月23日(火)
1月31日(水)
2月15日(木)
2月22日(木)
3月1日(木)
3月15日(木)

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

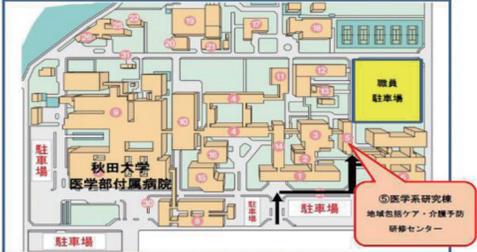
①全 体 13名

減塩や減量感覚で..「**減酒**」と一緒に取り組んでみませんか?

秋田大学「お酒と上手につきあう講座」

体のために、本当はお酒を減らしたい。
でも、自信がない・・・そんなあなたを
お待ちしております！※場所は**こちら**

女性限定コース
行きます！(^^♪



⑤医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防
研修センター

平成30年度

地域で働く医療職のための フィジカルアセスメント講座

在宅や施設での療養を支えるため、訪問医療や高齢者福祉施設で勤務する医療職は重要な役割を担っている。地域で活躍する医療職が身体状態を総合的にアセスメントし、医師への報告やケアなどの必要な対処につなげるフィジカルアセスメント能力を向上し、日々のケアの質の向上につなげる。

日時▶ 2018年6月9日～8月4日

場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室
秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
シミュレーション教育センター

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 看護師 …………… 19名

- 【反 応】
- ・心電図の電極の付け方を再確認できました。訪問時の観察の仕方、また何に気をつければよいか理解できました。
 - ・普段、医療職ではなるが、正確な知識もなく業務や看護にあたっていると痛感し、学びを深める機会になりました。職場でも家庭でも活かしていきたいと思います。
 - ・解剖生理学的に理解して、その方が体のアセスメントを適切にしてから実技することの大切さを学びました。
 - ・正確な観察方法を学ぶことができました。適切な対処で障害を最小限にすることが出来るので、今後は意識して対応していきたいと思います。

秋田大学医学部医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター 主催

平成30年度 地域で働く医療職のための フィジカルアセスメント講座

分野別ごとに座学と実技を交えながら、在宅で求められるフィジカルアセスメントについて、実務的な内容の講座を開催します。

1. 6月9日(土) 9時～12時 【循環器系アセスメント】	講師：秋田大学	長谷川 仁志先生
2. 6月16日(土) 13時～16時(休館12～13時) 【呼吸器系アセスメント】 【呼吸ケア】	講師：秋田大学	佐竹 博孝先生 佐竹 博孝先生
3. 6月23日(土) 9時～16時(休館12～13時) 【関節・運動系アセスメント】 【脳神経系アセスメント】	講師：秋田大学	岡田 昌司先生 大久保俊也先生
4. 7月7日(土) 9時～12時 【消化器系アセスメント】	講師：秋田大学	安藤 秀明先生
5. 8月4日(土) 9時～12時 【在宅に求められる総合アセスメント】	講師：秋田大学クリニック 常設	小見先生

開催場所 秋田大学医学部保健学科研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター
または、シミュレーション教育センター

対象 秋田県内で勤務されている在宅医療・地域医療に関わる医療職の方
(看護師・保健師・作業療法士・理学療法士・薬剤師一等)

定 員 20名程度 (先着順。申し込み多数の場合は定員を超過する可能性があります)
※すべての講座に出席できる方を優先させていただきますが、
ご都合により参加できない方は必ず事前にお知らせください。

申込方法 詳細申込用紙に必要事項をご記入の上、Eメール(Eメール)にてお申し込みください。
受講者の皆様には後日、受講のご案内を送付いたします。

費用 テキスト代 税込1,100円(希望者のみ) 実支払い(月1日の初回受付時
テキストは「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス」(インターメ
ディオ)を使用します。お持ちでない方は研修センターまでお申し込みいただけますので、
テキスト購入のサポートもご用意しております。

申し込み 各日でご準備いただいても結構です。

締め切り **平成30年5月23日(水)**

秋田大学 地域包括ケア・介護予防研修センター
〒010-8501 秋田県秋田市中区1-18-1 秋田大学
電話 011-834-8111(受付) 011-834-8112(直通) 011-834-8113(直通) 011-834-8114(直通)



▶ 2. 研修

平成30年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座(秋田大学) 「医療的マインドを持った介護職講座」 ～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2018年10月20日(土)

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟

地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 7名
ホームヘルパー …………… 1名
その他 …………… 1名

- 【反 応】・最近、緊急時の対応が続いており、簡潔に医療職へ伝えることの重要性を改めて感じた。
- ・医療知識がさらに必要だと感じた。
 - ・受講前は内容を全く理解しないまま、受講していましたが、受講後は納得できることが多く、受講してよかった。
 - ・気付きや観察をすることが大切であると感じた。
 - ・本題に対する重要性は理解していたが、それに伴った観点、知識が全く足りないと気づいた。今後の課題としてうけとめ、勉強していきたい。

秋田大学医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター 主催
平成30年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきています。厚生労働省の補正給付においては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもっと具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療職に伝達することが求められています。

介護職の研修の中には、事業者の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないのでしょうか？
そこで、今回は生活行動別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐための正しい視点を持って介護すればよいのか、フィジカルアセスメント(身体状態の評価)の視点から講座を開催したいと思います。

開 催 内 容
平成30年10月20日(土) 10:00～15:00
10:00～12:00 「総 論」
講 師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子先生
13:00～15:00 「事例検討・演 習」
講 師：地域包括ケア・介護予防研修センター、スタッフ
※事前研修あり、生活行動別に演習を行います。

開 催 場 所 秋田大学大学院医学系研究棟(階)地域包括ケア・介護予防研修センター
対 象 県央地区で勤務されている介護福祉士(資格保有の有無は問いません) 等
定 員 25名程度(先着順) 費 用 無 料

申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX(018-824-6557)にて、お申し込みください。
※FAXでの申し込みを済ませ、受付と致します。受講決定通知等の発送はございません。定員超過で参加をお断りする場合はご連絡を差し上げます。

持 ち 物 筆記用具、普段業務で使用している名称
備 考 特に指定はありません

締 切 り 平成30年10月12日(金)

問い合わせ先
秋田大学医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター
〒010-8502 秋田県秋田市大森町1-1
電話 018-824-6557
FAX 018-824-6557



▶ 2. 研修

平成30年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座（湯沢市） 「医療的マインドを持った介護職講座」 ～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日 時▶ 2018年11月16日（金）

場 所▶ 湯沢市役所 25 会議室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護福祉士 …………… 5名
福祉用具専門相談員 …………… 1名

- 【反 応】・利用者様の状態変化に気づくこと（気づきの大切さ）医療との連携については提案という形でもっていくこと。
- ・今現在は用具担当ですが以前、デイサービスに努めていた時、フィジカルアセスメントを業務の中で全職員が共有できていたなあとと思った。「フィジカルアセスメント」だけではピンときませんでしたが、講習を終えて介護職員だからこそ気づけることはたくさんあるということを確認できた。
 - ・普段行っていることを紙に書くのは難しく、書くことも必要だと感じた。初めてSBARを知った

秋田大学医学部医科学研究科地域包括ケア・介護予防研修センター主催
平成30年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の根本目標を踏まえては、医療・介護・予防の一体的な連携が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療職に伝達することが求められています。
介護職の皆様の中には、事業年度の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないのでしょうか？
そこで、今回は生活行為別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメント（身体状態の評価）の視点から講義を開催したいと思います。

日 時▶ 平成30年11月16日（金） 10:00～15:00
10:00～12:00 「講 義」
講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美穂子先生
13:00～15:00 「事例検討・演 習」
講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ
※事業費助成あり、生活行為別に演習を行います

開催場所▶ 湯沢市役所 25会議室

対 象▶ 県南地区で勤務されている介護福祉士（業務の有無は問いません）等

定 員▶ 20名程度（先着順）

費 用▶ 無 料

申込方法▶ 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX 0181-331-3331にて、お申し込みください。
※FAXでの申し込みを承れません。必ずお申し込みください。
受講決定通知等の発送はございません。
定員超過で参加をお断りする場合はご連絡を申し上げます。

持 ち 物▶ 筆記用具、普段業務で使用している名札
※お持ちの服装は自由です。
※会場は秋田大学医学部医科学研究科地域包括ケア・介護予防研修センターです。

備 考▶ 特になし

締め切り▶ 平成30年11月9日（金）

お問い合わせ▶ 秋田大学医学部医科学研究科地域包括ケア・介護予防研修センター
〒010-8502 秋田県湯沢市湯沢1-1-1
電話：0181-331-3331 FAX：0181-331-3332
Eメール：yuzawa@med.a-u.ac.jp



▶ 2. 研修

平成30年度 介護職のためのフィジカルアセスメント講座(大館市)
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日時▶ 2018年12月19日(水)
場所▶ 大館市立中央公民館 第1・2研修室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	介護福祉士	11名
	ホームヘルパー	1名
	介護支援専門員	3名
	社会福祉士	2名
	看護師	1名
	その他	2名

- 【反 応】・フィジカルアセスメントについては日頃の経験である程度理解していたと思いましたが、より具体的な視点、簡潔な報告の仕方などを学べた。
- ・SBARでアセスメントすることで状況をつかむことができ、緊急性が必要な場合、医療へつなげることが重要だと思った。
 - ・医療分野の知識についてももっと学んでいかなければいけないという気持ちになった。
 - ・何となくではなく、しっかりとした医療的マインドを持つことが必要だと感じた。

秋田大学医学部研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター 主催
平成30年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の基本設計モデルにおいては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活環境のアセスメントの内容を医療側に伝達することが求められています。

介護職の業務の中には、患者様の介護の中で、「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多いのではないでしょうか？
そこで、今回は生活行動別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメント(身体状態の評価)の観点から講座を開催したいと思います。

開催内容
平成30年12月19日(水) 10:00～15:00
10:00～12:00 「総論」
講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美穂子先生
13:00～15:00 「事例検討・演習」
講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ
※事前検討や、生活行動別に演習を行います

会場 大館市立中央公民館 第1・2研修室
対象 大館市内で勤務されている介護福祉士(業務保有の有無は問いません) 等
定員 30名程度(先着順)
費用 無料
申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、
12月12日(水)まで、お申し込みください。
※1日での申し込みを持ちまして、受付と致します。
受講決定通知等の郵送はございません。
定員超過で参加を希望する場合はご連絡をお願いします。

持ち物 筆記用具、普段業務で使用している名札
昼食(別途していただいても大丈夫です)
履 装 特に指定はありません

問い合わせ先
秋田大学医学部研究科附属
地域包括ケア・介護予防研修センター
〒015-8502 秋田県大館市大館1-1-1
電話：0187-831-1000 FAX：0187-831-1002
電子メール：daigo@med.a-u.ac.jp

締め切り **平成30年12月12日(水)**



▶ 2. 研修

平成30年度 研修会「安全な移動・移乗」

介護職が日常的に行う介助行為の「移動」「移乗」については、転倒のリスクも伴うため、介助に不安を抱えている介護職も多い。また、介助動作が原因で腰痛を引き起こすなど、自身の身体に負担がかかることもある。本講座では、理学療法士、作業療法士が講師となり、「ボディメカニクス」や介助用具を用いた方法を、実技中心に行う。身体への負担を軽減し、事故のリスクが少ない移動・移乗介助の方法を習得し、日々の業務にすぐに実践できるようにする。

日 時▶ 2018年8月5日(日)
場 所▶ 秋田大学医学部保健学科棟
 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 看護師 …………… 1名
 介護福祉士 …………… 8名
 その他 …………… 1名

- 【反 応】・体をうまく使えば今まで以上に負担なく安全に出来るのだと感じた。
 ・基本に立ち返るような感じで慣れでやっている部分を意識して直したいと思った。
 ・この仕事を初めて10年以上になるが、違う移乗方法を学べてよかった。
 ・無理なら2人で介助も頭に入れて仕事していきたい。

秋田大学 地域包括ケア・介護予防研修センター主催
研修会「安全な移動・移乗」
日時：2018年8月5日(日) 9時～12時
場所：秋田大学医学部保健学科 1階
 地域・老年看護学実習室
内容：09時00分～10時30分 安全な移動について
 10時40分～12時10分 安全な移乗について
講師：秋田大学大学院医学系研究科 津軽谷 恵・齊藤 明

対象者
秋田県内で高齢者の医療・介護に従事されている方（看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士など）
20名（先着順）
※人数が20名に達した時点で受付を終了いたします。

受講者の皆様へ
当日は、9時までに秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室へお越しください。
服装：Tシャツ等の動きやすい服装
持ち物：内履き、筆記用具、普段履きで使用されている名札、フェイスタオル1枚

申し込み
詳細の申し込み用紙に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。FAXでの申し込みを待ちまして、受講決定とさせていただきます。
【受講決定通知等の連絡はありません】
人数の超過で受講をお断りさせていただく場合がございます。7月27日(木)までに連絡を差し上げます。

地図
お車でお越しの方は、土日は駐車スペースが限られておりますので、ご留意ください。

問い合わせ先
秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター
018-884-6557, chiki@hs.akita-u.ac.jp



▶ 2. 研修

平成30年度 退院支援スキルアップ養成プログラム

秋田県は高齢化率、人口減少率、生活習慣病による死亡率が47都道府県中常に上位であり、過疎化に伴う医療及び介護サービスの偏在が顕著な状況にあるなど、退院支援を行う上での課題も地域性、多様化していることが予測されます。そこで、まずは県内二次医療圏のうち秋田市を圏域として、地域特性をふまえた医療および介護の実状と施設間、職種間連携における課題分析を基に、病院勤務看護師を対象とした退院支援のスキル向上のための研修プログラムを平成28年度より附属病院看護部と共催で開催しています。

日 時▶ 11月18日(日) 9時～17時
12月22日(土) 8時50分～14時20分(大学院特別講義)
1月26日(土) 9時～17時
2月23日(土) 9時～12時

※この他に、1月7日～2月8日のうち1日間の秋田市内訪問看護実習

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 秋田大学医学部医学附属病院 … 12名
中通総合病院 …………… 2名
市立秋田総合病院 …………… 2名
秋田厚生医療センター …………… 1名



▶ 2. 研修

平成30年度 **お酒と上手に付き合う講座**

一般住民を対象に健康なアルコールとの付き合い方を知り、参加者同士の交流を通じて、健康的な選択と行動ができるよう学ぶ機会とした。

日 時▶ 2019年1月17日(木)
1月24日(木)
2月20日(水)
2月21日(木)
3月5日(木)
3月19日(火)

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

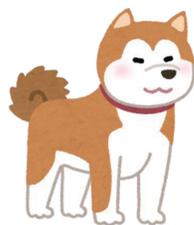
事業実施効果▶

①全 体 6名

減塩や減量感覚で..「減酒」に一緒に取り組んでみませんか？

秋田大学「お酒と上手につきあう講座」

女性限定コース
行います！(^^)



体のために、本当はお酒を減らしたい。
でも、自信がない・・・そんなあなたを
お待ちしております！※場所はこちら



開講日時：女性限定コース(1/17・1/24・2/20)か

一般コース(2/21・3/5・3/19) 13:30-15:30 ミニ講話と語り

参加費等：無料です。できるだけ1コース3日間参加できる方

応募方法：お電話で直接お申し込みか、または別紙の申し込み用紙

に必要事項をご記入のうえ、郵送・FAX等でお申し込みください。

—お問い合わせ—

〒010-8543 秋田市本道1丁目1-1 秋田大学大学院医学系研究科
附属地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
電話及びFAX 018-884-6508 または 090-6627-1896 (担当 熊澤)

▶ 2. 研修

令和元年度

地域で働く医療職のための フィジカルアセスメント講座

在宅や施設での療養を支えるため、訪問医療や高齢者福祉施設で勤務する医療職は重要な役割を担っている。地域で活躍する医療職が身体状態を総合的にアセスメントし、医師への報告やケアなどの必要な対処につなげるフィジカルアセスメント能力を向上し、日々のケアの質の向上につなげる。

日時▶ 2019年6月29日～8月31日

場所▶ 秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室
秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
シミュレーション教育センター

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 看護師 …………… 19名

【反 応】 ・受講前は難しいと思いましたが、実際はわかりやすく、とても自分にとって良い講座だった。

- ・解剖学的事実を考慮し、効果的なスクリーニングが出来るようにしたいと思った。
- ・日常的に行っている観察について、異常を判断する裏付けなども良く理解できた。
- ・排便コントロールの必要性、アセスメントの大切さを改めて考えさせられる講義だった。
- ・バイタルサインという数値ばかり見て報告していたと思った。自分で見て、アセスメントしたことを報告することが大切だと思った。

2019年度 地域で働く医療職のための
フィジカルアセスメント講座

分科別に2日に隔年と実施を交えながら、在宅で求められるフィジカルアセスメントについて、実践的・体系的に講義を開催します。

1. 6月29日(土) 9時～15時(休憩12時～13時)	講師: 秋田大学	長谷川 仁孝先生
「循環器系アセスメント」	講師: 秋田大学	安藤 秀明先生
「消化器系アセスメント」		
2. 7月6日(土) 9時～12時	講師: 秋田大学	岡田 幸司先生
「関節・運動系アセスメント」		
3. 7月20日(土) 9時～15時(休憩12～13時)	講師: 秋田大学	佐竹 裕宏先生
「呼吸器系アセスメント」	講師: 秋田大学	佐竹 裕宏先生
「呼吸ケア」		
4. 8月24日(土) 9時～12時	講師: 秋田大学	中瀬 泰然先生
「精神系アセスメント」		
5. 8月31日(土) 9時～12時	講師: 秋田大学	中瀬 泰然先生
「在宅に求められる総合アセスメント」	講師: 秋田大学 佐竹 裕宏先生 岡田 幸司先生	

開催場所: 秋田大学医学部保健学科地域包括ケア看護研修センター
2F 地域・老年看護学実習室

対象: 秋田県内で就業している在宅医療・施設医療に関わる医療職の方
(看護師・介護士・理学療法士・薬剤師等)

定 員: 30名程度 ※定員を超えた場合は抽選による参加となりますが、抽選に当たらない場合は参加費を返金いたします。

申込方法: 申込用紙に必要事項を記入の上、FAX018-884-6887にて申し込みください。

費 用: 受講料 20,000円(消費税別) ※受講料は16時30分以前に返金申請書と併せて提出してください。返金申請書は「返金申請書」欄に記載の住所へお送りください。返金申請書は必ずお送りください。返金申請書は必ずお送りください。返金申請書は必ずお送りください。

締め切り: 2019年5月24日(金)
定員が満員となった場合は抽選となります。

お問い合わせ: 秋田大学医学部保健学科地域包括ケア看護研修センター
〒99-8551 秋田県秋田市中区大森1-1-1 秋田大学
保健学科 地域・老年看護学実習室 2F 地域・老年看護学実習室
TEL: 018-884-6887 FAX: 018-884-6887



▶ 2. 研修

令和元年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座 「医療的マインドを持った介護職講座」(大館市)

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日時▶ 2019年10月18日(金)

場所▶ 大館市立中央公民館
視聴覚ホール

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	介護福祉士	6名
	ホームヘルパー	4名
	介護支援専門員	6名
	社会福祉士	1名
	その他	2名

- 【反 応】
- ・医療的な視点を持ちアセスメントすることで医療職とのコミュニケーションにも活かせると思った。
 - ・介護職員でなければ気付けない要介護者の様子。今までの業務でも心がけるようにしていたが、具体的に気付きの幅がさらに広がった。
 - ・医療者への申し送り、報告する際にはSBARを使い、分かりやすく伝えたいと思った。
 - ・利用者の既往歴から考えられる病変について学ぶことが出来て良かった。現場での対応や評価についても感心した。

秋田大学医学系研究科地域福祉ケア・介護予防研修センター 主催
令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の基本形モデルにおいては、医療・介護・予防の一体的な提供が図られ、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療側に伝達することが求められています。

介護職の習得の中には、療養者様の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多くはないでしょうか？
そこで、今回は生活行為別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメント(身体状態の評価)の視点から講座を開催したいと思います。

開 催 内 容
令和元年10月18日(金) 10:00～15:00
10:00～12:00 「総論」
講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子先生
13:00～15:00 「事例検討・演習」
講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ
※事例検討や、生活行為別に演習を行います。

会 場 大館市立中央公民館 視聴覚ホール
対 象 大館市内で勤務されている介護福祉職(資格保有の有無は問いません) 等
定 員 50名程度(先着順)
費 用 無 料
申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX(018-834-2557)にて、お申し込みください。
※FAXでの申し込みを控えまして、受付と致します。
受講決定通知等の発送はございません。
定員超過で参加をお断りする場合はご連絡を申し上げます。

持 ち 物 筆記用具、普段業務で使用している名札、
昼食(外食していただいても大丈夫です)
服 装 特に指定はありません

秋田大学医学系研究科地域福祉ケア・介護予防研修センター
〒015-8502 秋田県大館市大館1-1-1 3F
TEL 018-834-2557 FAX 018-834-2557
Eメール 018-834-2557@akita-u.ac.jp

締め切り 令和元年10月1日(金)



▶ 2. 研修

令和元年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座 「医療的マインドを持った介護職講座」(仙北市)

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日時▶ 2019年11月15日(金)

場所▶ 仙北市役所西木庁舎
西木開発センター集会室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】	介護福祉士	……………	4名
	ホームヘルパー	……………	1名
	介護支援専門員	……………	3名
	その他	……………	1名

- 【反 応】・SBARについて知ることが出来、医療職へつなげる際に的確に伝えるように努めたいと思った。
 ・主治医へ伝える時の順番、分かりやすく伝えることが難しかったが、少し理解できた。
 ・利用者さんの基本的ないつもの状態を知ることによって早くその変化に気付くことができる
 ・いつも自分たちがしていることを文章にし、目にすることも介護を理解する良い方法だと思った。

令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント
「医療的マインドを持った介護職講座」
～医療につなぐ新しい介護の視点～

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となつてきています。厚生労働省の根本目標においては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療職に伝達することが求められています。
 介護職の現場の中には、事業受給者の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多いいのではないのでしょうか？
 そこで、今回は生活行為別に「医療につなぐための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につなぐためにはどのような視点を持って介護すればいいのか、フィジカルアセスメント（身体状態の評価）の視点から講座を開催したいと思います。

開催内容
 令和元年11月15日(金) 10:00～15:00
 10:00～12:00 「総論」 講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子先生
 13:00～15:00 「事例検討・演習」 講師：地域包括ケア・介護予防総合センター スタッフ
 事業費助成費で、生活行為別に演習を行います

開催場所 仙北市役所西木庁舎 西木開発センター集会室
 対象 仙北市で勤務されている介護福祉士（業務報告の有無は問いません）等
 定員 20名程度（先着順）
 費用 無料
 申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX018-881-3331にて、お申し込みください。申込での申し込み締め切りは、受付終了です。定員満了次第でキャンセルする場合がございます。
 持ち物 筆記用具、普段業務で使用している名札（写真）
 服装 特になし
 締め切り 令和元年11月11日(月)



令和元年度

介護職のためのフィジカルアセスメント講座 「医療的マインドを持った介護職講座」(秋田大学)

住み慣れた地域でその人らしい生活の支援のため、地域で高齢者の生活をさせる介護職の役割は日々重要となってきた。しかしながら、秋田県内では、介護職向けのフィジカルアセスメントの研修は少ない現状である。当センターで実施することにより、医療的マインドを持った介護の実践につなげていく。

日時▶ 2019年12月17日(火)

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

- 【内 訳】 介護福祉士 …………… 4名
- ホームヘルパー …………… 1名
- 介護支援専門員 …………… 4名
- その他 …………… 1名

【反 応】・介護職になぜ「医療的マインド」が求められているのか理解できた。

- ・地域包括ケアシステムについていろいろな研修に出ましたが、どれもぼんやりしていて分からなかった。今回の研修では、自分たちの役割が少し見えたような気がする。
- ・医療的な観点でのアセスメントを普段やっているようでも具体的にここが必要だというポイントが理解できた。
- ・普段の利用者さんとの関係を密にし、気付きや観察をすることが大切であると思った。
- ・医療職への報告の仕方を勉強させていただいた。

秋田大学医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター 主催

令和元年度 介護職のためのフィジカルアセスメント 「医療的マインドを持った介護職講座」

地域包括ケアシステムの中で、高齢者の生活を支える介護職の役割は日々重要となってきました。厚生労働省の結核モデルにおいては、医療・介護・予防の一体的な提供が示され、介護職に「医療的マインド」をもって具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療側に伝達することが求められています。

介護職の皆様の中には、療養者様の介護の中で「これは医師や看護師に報告すべきことなのか？」と悩まれた経験がある方も多くはないでしょうか？

そこで、今回は生活行為別に「医療につながるための介護の新しい視点」というテーマを設定し、医療につながるためにはどのような視点を持って介護すればよいか、フィジカルアセスメント(身体状態の評価)の視点から講座を開催したいと思います。

開催内容

令和元年12月17日(火) 10:00~15:00

10:00~12:00 「**総論**」
講師：日本赤十字秋田短期大学 高橋 美枝子先生

13:00~15:00 「**事例検討**」
講師：地域包括ケア・介護予防研修センター スタッフ

開催場所 秋田大学医学部キャンパス内 総合研究棟1階 暮らしの保健室

対 象 秋田市内または周辺地域で勤務されている介護福祉職
(資格保有の有無は問いません) 等

定 員 20名程度(先着順) **費 用** 無 料

申込方法 別紙申込用紙に必要事項を記載の上、FAX0118-844-3377にて、お申し込みください。
※FAXでの申し込みを待ちまして、受付を致します。
受講決定通知等の発送はございません。
定員超過で参加をお断りする場合がございます。

持ち物 筆記用具、普段業務で使用している名札
昼食(外食していただいても大丈夫です)

服 装 特に指定はありません

締め切り **令和元年12月9日(月)**

問い合わせ先
秋田大学医学系研究科附属
地域包括ケア・介護予防研修センター
〒11-0902
秋田県秋田市長途2丁目1番10
電話 0118-844-3377 FAX 011-844-3377
電子メール 1811@med.ac.aori.ac.jp

▶ 2. 研修

令和元年度

地域で働く相談支援業務者のための ファシリテーションスキルアップ講座

地域ケア会議やサービス担当者会議では、地域住民や専門職をファシリテートしながら進行することが介護支援専門員や地域包括支援センター職員に求められている。そのようは職種の方々のために、ファシリテーションスキルの向上やコミュニケーションスキルの向上を目指し、講座を開催する。

日時▶ 2019年10月30日(水)
場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 介護支援専門員 …………… 6名

- 【反 応】・ファシリテーションについて、受講前はみんなの意見をまとめるものだと思ったが、まとめる必要はなく、みんなの意見を引き出すことが大切だとわかった。
- ・ファシリテーションを苦手と感じていましたが、訓練していくことで上達するとわかり、グループワークは有意義なものだった。
 - ・目的と合意を会議参加者全員と共有することを意識するようになった。
 - ・まとめ役ではなく、引き出し役になることだと気づいた。
 - ・傾聴の大切さ、進行役の力量で良い結果となるかもしれない。



令和元年度 研修会「安全な移動・移乗」

介護職が日常的に行う介助行為の「移動」「移乗」については、転倒のリスクも伴うため、介助に不安を抱えている介護職も多い。また、介助動作が原因で腰痛を引き起こすなど、自身の身体に負担がかかることもある。本講座では、理学療法士、作業療法士が講師となり、「ボディメカニクス」や介助用具を用いた方法を、実技中心に行う。身体への負担を軽減し、事故のリスクが少ない移動・移乗介助の方法を習得し、日々の業務にすぐに実践できるようにする。

日 時▶ 2019年9月26日(木)
場 所▶ 秋田大学医学部保健学科棟
地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 看護師 …………… 1名
介護福祉士 …………… 4名
その他 …………… 1名

- 【反 応】・重心を基本的に理解していなかったことで正しい移乗が出来ていなかった。意識して動くことで負担が減った。
- ・車いすで全介助の方への移乗の苦手意識がなくなった。
 - ・スライディングシートの使い方、支持基底面と重心、身体の動かし方など学ぶことが多く、今後役立つと思った。

秋田大学 地域包括ケア・介護予防研修センター主催
研修会「安全な移動・移乗」
日時：2019年9月26日(木) 13時～16時
場所：秋田大学医学部保健学科 1階
地域・老年看護学実習室
内容：13時00分～14時30分 安全な移動について
14時40分～16時10分 安全な移乗について
講師：秋田大学大学院医学系研究科 津軽台 恵・齊藤 明

対象者
秋田県内で高齢者の医療・介護に従事されている方(看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士など)

人数
20名(定員)
※人数が20名に達した時点で受付を終了いたします。

申し込み
研修の申し込み用紙に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。
FAXでの申し込みを持ちまして、受講決定をさせていただきます。
(受講決定通知等の送付はございません)
人数の順で受講をお申し込みいただき、都合により、9月19日(木)までに連絡を申し上げます。

受講者の皆様へ
当日は、13時までには秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室へお越しください。
服装 ジャージ等の動きやすい服装
持ち物 内服薬、筆記用具、普段履きで使用されている靴、フェイスタオル1枚

地図
秋田大学医学部保健学科棟 1階 地域・老年看護学実習室

お問い合わせ先
秋田大学大学院医学系研究科 地域包括ケア・介護予防研修センター
018-884-6557, chiki@hs.akita-u.ac.jp



▶ 2. 研修

令和元年度 退院支援スキルアップ養成プログラム

秋田県は高齢化率、人口減少率、生活習慣病による死亡率が47都道府県中常に上位であり、過疎化に伴う医療及び介護サービスの偏在が顕著な状況にあるなど、退院支援を行う上での課題も地域性、多様化していることが予測されます。そこで、まずは県内二次医療圏のうち秋田市を圏域として、地域特性をふまえた医療および介護の実状と施設間、職種間連携における課題分析を基に、病院勤務看護師を対象とした退院支援のスキル向上のための研修プログラムを平成28年度より附属病院看護部と共催で開催しています。

日 時▶ 11月16日(土) 9時～17時
12月21日(土) 8時50分～14時20分(大学院特別講義)
1月25日(土) 9時～17時
2月15日(土) 9時～12時

※この他に、1月6日～2月7日のうち1日間の秋田市内訪問看護実習

場 所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
秋田大学医学部保健学科棟 地域・老年看護学実習室

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】 秋田大学医学部医学附属病院 … 11名
中通総合病院 …………… 2名
秋田赤十字病院 …………… 2名
秋田厚生医療センター ……… 2名
市立秋田総合病院 …………… 1名



▶ 2. 研修

令和元年度 あきたウィメンズカフェ

女性の不適切な飲酒によって生じるアルコール健康障害について普及啓発を図り、お酒のみならず、様々な依存の問題や、依存の背景にある生きにくさと向き合う力をエンパワメントすることを目的として開催した。

日時▶ 2019年4月9日（火）から毎月第二火曜日 全10回

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター（暮らしの保健室）

事業実施効果▶

①全体 10名程度 / 回



ちょっとした「生きにくさ」を感じている女性のための

あきたウィメンズカフェ（女性グループ）in 暮らしの保健室

人口減少社会のトップランナーである秋田県。仕事も、家庭的な役割も、ますます女性に期待される時代になってきました。県内女性の皆さん、世の中や誰かの期待に応えようとしてがんばり過ぎていませんか。疲れやことばにならない悲しみに蓋をいませんか、大事な人や自分の目指す方向を見失って、一人ボツと悩んでいませんか。タバコやお酒、食べ物、お薬や買い物、占いや宗教、ギャンブルや人間関係に気持ちが傾いて生き方のバランスを崩していませんか。何はともあれ、ちょっとした「生きにくさ」を題材に自分自身を取り戻すきっかけを探してみませんか。女性どうしだから気兼ねなく話せる、継続的な出会いの場を**カフェ形式**で「暮らしの保健室」に用意しました。どうぞ、お気軽にいらしてください。

次回より、開催時間が**15:10-16:30**と変更になりました。

7/9、8月は休み、9/10、10/8、11/12、12/10、2020年 1/14、

2月はお休み、3/10

秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター

「暮らしの保健室」

〒010-8543 秋田市本道一丁目1番1号 担当：米山・熊澤

連絡先 熊澤 018-884-6508 E-mail yumiko@hs.akita-u.ac.jp

▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成30年度 プレママカフェ

対 象▶妊婦向けに情報交換の場としてカフェを実施

日 時▶第2, 4金曜日 14:00～16:00

場 所▶秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全 体

【参加人数】 平均 10～13名/回

【内 訳】 学生 …………… 1名
妊婦 …………… 2名
母親(乳幼児) …………… 10名

- 【反 応】・メディアの取材やFacebookでの発信により、参加者が増加し、参加者数が安定した
- ・ママカフェが妊婦、母親の情報交換の場として定着した
 - ・参加者同士がつながりを構築し、ママカフェの外でも情報交換をしている
 - ・参加者が日頃不安に思っていることを相談する場になっている

②学 生

【参加人数】 1～2名/回(平均)

- 【反 応】・妊産婦との交流の場となっている
- ・母親の心身の状態を直接感じ取る場になっている
 - ・妊産婦、乳幼児への思いやりが醸成されている

③地 域

【参加人数】 上期1～2名/回 下期5～8名/回(平均)

- 【反 応】対象を妊婦のみから子どもを持つ母親に変更したことで参加者が増えた



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成30年度

お茶を飲みながらつながりませんか、語りませんか

対 象▶秋田市で看護職に従事している方

日 時▶2018年8月24日(金)

場 所▶秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】	学生	4名
	病院勤務	8名
	その他施設	4名
	デイサービス	2名
	包括支援センター	1名
	サ高住	1名
	教員	6名

- 【反 応】
- ・看護職同士の悩みを共有できた
 - ・横のつながりを築く良い機会になった
 - ・ほかの職場の状況を知ることができ、自分の職場と比較できた
 - ・自分の職場の問題を解決する良いアドバイスをもらうことができた
 - ・視野が広がった
 - ・同僚にも参加してほしかった

②学 生

【参加人数】4名

- 【反 応】
- ・多くの看護師と交流ができ、貴重な経験になった
 - ・実際に働いてみて初めてわかったことなどを聞くことができて良かった
 - ・病棟と介護施設でも違い悩みを抱えていることがわかった
 - ・病院以外にも活躍の場があると知り、就活の際に参考にしようと思った

③地 域

【参加人数】16名

- 【反 応】
- ・他の職場の情報を得ることが出来て、いろいろ参考になった
 - ・悩みを共有できて、自分だけが悩んでいるわけではないと安心した
 - ・悩み話しあうことで解決策を教えてもらった



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成30年度

お茶を飲みながらつながりませんか、語りませんか

対 象▶医療、福祉に従事している方

日 時▶2018年10月19日(金)

場 所▶秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全 体

【内 訳】	学生	7名
	病院勤務	1名
	歯科衛生士	1名
	ショートステイ	4名
	秋田市役所	1名
	その他介護施設	9名
	教員	7名

- 【反 応】
- ・多職種と情報交換ができた
 - ・多職種連携の大切さを感じた
 - ・多職種連携がうまくいけば、もっと在宅でのケアが充実すると思った
 - ・多職種の人の意見を聞く良い機会になった

②学 生

【参加人数】7名

【反 応】

1. 医療・福祉職の方より
 - ・看護職以外の方の話が聞いて良かった
 - ・看護職に求められることを考えさせられた
 - ・看護職で働くことになっても多職種との連携を大切にしていきたい
 - ・介護施設などでは、看護師の役割がとても重要で、頼りにされていると感じた
 - ・介護現場の実情を生で聞くことできた
 - ・多職種ともコミュニケーションを取りながら進めていきたい
 - ・もっとたくさんお話を聞きたかった
2. 一般・市役所職員の方より
 - ・多職種連携の大切さを感じた
 - ・多職種の方々と知り合いになることができ良かった
 - ・介護現場、医療現場の声を直接伺うことができよかった(長寿福祉課の方より)
 - ・またこういった機会があれば参加したい
 - ・次回は同僚も一緒に参加したい

◎◎秋田市多職種カフェ◎◎

お茶を飲みながらつながりませんか、語りませんか

開催日時▶2018年10月19日(金) 18:00~20:00

場 所▶地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)
秋田大学大学院医学系研究棟1階

対 象▶秋田大学で医療、福祉等の仕事に従事されている方
(秋田市以外の方の参加も可能です！)

様々な立場の皆さんの交流の場として、
「横のつながり」を作り、今後の地域包括ケアに活かしていきましょう。

定 員▶20名(先着順)
(お茶とお菓子、飲み物をご用意し、お茶の淹れ方を説明いたします)

受講料▶無料

駐車場▶外車一部駐車場をご利用ください(無料)
軽車 ありませぬ

申し込み方法▶FAXまたはE-mail
表裏の申込用紙にご記入の上、FAXにてお送りください
FAX番号▶018-884-6558
E-mail▶お名前と〒500番地を明記し、下記アドレスまでお申し込みください
E-mail▶chake@hs.akita-u.ac.jp
(①氏名 ②年齢 ③連絡先(電話番号またはE-mailアドレス)④所属施設名)

締 切 日▶10月12日(金)曜日

主催▶秋田大学大学院医学系研究棟地域包括ケア・介護予防研修センター・秋田大学地方創生センター
TEL/FAX▶018-884-6558 E-mail▶chake@hs.akita-u.ac.jp



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成30年度 うんちカフェ

排泄ケアについて

日時▶ 2018年11月10日(土)

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 学生	1名
病院勤務	4名
介護施設	14名
保健師	1名
ボランティアスタッフ	1名
教員	9名

- 【反 応】
- ・便秘と下剤についての考え方が変わった
 - ・他の職員にも聞いてほしいと思った
 - ・認知症介護に対する向き合い方も勉強になった
 - ・今後の業務に役立つと思った
 - ・排泄の話は敬遠しがちだが、非常に重要なことだと改めて感じた
 - ・自力で排便のコントロールできるのが良いと思った
 - ・生涯付き合っていく排泄なのにあまり知られていない事が多いと知った

②学 生

【参加人数】 1名

- 【反 応】
- ・排泄は尊厳に関わることだと感じた
 - ・実習に行くと座薬や摘便などを頻繁に行っている様子を見てそれが普通だと思っていた

③地 域

【参加人数】 20名 ※教員・学生以外的人数

- 【反 応】
- ・便秘に対して、決まった対応しかしていないので、少しずつ改善できればと思った
 - ・姿勢や食事、お腹を温めるなどの方法が参考になった
 - ・もっと多くの人に知ってもらいたい内容であった
 - ・便秘について真剣に考えるようになった

「毎日きちんと出てますか？」
「介護・看護で困っていませんか？」
「排便がスムーズにできるか？」
「排便がスムーズにできるか？」

2018年11月10日(土) 13:30~15:00
会場 ▶ 秋田大学本館40周年記念会館(4階講堂)
参加申込 ▶ 申込不要・参加費無料

講師：榎原千枝先生
【講師】榎原千枝先生
コンチネンツケア・イノベーションセンター 地域包括ケア・介護予防センター 保健師、助産師、看護士、コネクトス・アクトイザー
金沢大学医学部研究科博士後期課程修了(保健学博士)
はなびプロジェクトのコーディネーター、代表
訪問看護ステーション「やまのいこ」管理者、ちひろ助産師院長

お問い合わせ ▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター
TEL/FAX 018-694-6557 または 018-694-6558 (暮らしの保健室)
MAIL chik@hs.akita-u.ac.jp



平成30年度

秋大医学部地域とつながり隊 男鹿とつながり隊カフェ

2018年5月18（金）～19日（土）※雨天中止
地域の皆さんとの情報交換と交流

日時▶ 2018年10月26日（金）～27日（土）

場所▶ 男鹿市秋田大学男鹿なまはげ分校

事業実施効果▶

①全体

- 【反 応】
- ・地域の特性と知ることができた
 - ・地域の皆さんとつながりが深まった
 - ・学生同士のつながりが出来た
 - ・1、2年生の参加者は秋田を知る機会にもなった（ジオパーク見学）

②学 生

【参加人数】 12名

【内 訳】

医学科	2名
保健学科計	10名
看護学専攻	5名
理学療法学専攻	3名
作業療法学専攻	2名

- 【反 応】
- ・地域の特性を知ることができた
 - ・地域の皆さんの想いを直接聞くことができ、本当に良かった
 - ・健康に関する悩みが多かった
 - ・将来に対する不安を聞いた
 - ・ディナーミーティング形式だったので、気軽にお話をすることができ、交流を深めることができた
 - ・2日目のジオパークは景色がきれいだったので、個人的にもいつか行ってみたいと思った

③地 域

【参加人数】 5名

- 【反 応】
- ・将来の医療の担い手である学生さんと直接対話できてよかった
 - ・地域の現状を学生さんたちに伝えることができて本当によかった
 - ・地域が抱える悩みや問題を学生さんたちと話し合えてよかった
 - ・次回開催があればまた参加したい

秋田大学医学部地域とつながり隊・介護予防研究センター
秋田大学地域創生センター

秋大医学部 男鹿とつながり隊CAFÉ

学生と地域とのつながりをつくるイベントです!!
男鹿に泊まって、男鹿の皆さんと交流(カフェ)して、男鹿とつながろう!!

参加者募集 **参加無料**

1泊2日で男鹿に行こう!!

開催日程 10月26日(金)～27日(土) 男鹿市(男鹿なまはげ分校)

●1日目 10月26日(金)	●2日目 10月27日(土)
17:30 医学部をバスで出発	8:00 朝食
18:00 男鹿市到着	10:00 男鹿の方々トークカフェ
19:30 男鹿市の保健医療について	12:00 昼食
↓ 学習会・夕食会	13:30 男鹿市内ミニツアー1 (ジオパーク見学)
21:30	16:00 男鹿市を出発
	17:00 医学部に到着・解散

※日曜は紅葉を見る機会があります

申込方法
申し込みはメールでお願ひします。
件名は「秋大医学部男鹿とつながり隊参加希望」、本文に①氏名②学年の別次③医学科・保健学科看護学科の別④住所⑤連絡先(年齢・性別・電話番号)のメールアドレスを記載し、下記のアドレスまでお送りください。
締め切りは10月11日(木)。Eメール→chidid@h.akita-u.ac.jp
参加申込書の方々を印刷し、事前に印刷して提出させていただきます。必要書類の記入が完了した場合は、印刷して提出していただきます。必要書類がない場合は、印刷して提出していただきます。事前説明会に参加できない方は印刷して提出していただきますので、ご確認ください。

注 意
参加無料ですが、宿泊費・食費・交通費1,000円程度は各自で必要となります。(詳細金額は事前説明会で説明します)
後日、参加者の方々の銀行口座に立て替わりの金額を振り込ませていただきます。

平成30年度は、今回の1泊2日機手での開催予定です。
天候や授業の都合で今回は出席できなかったという方は、是非、次回以降にご参加ください!!

秋田大学医学部地域とつながり隊・介護予防研究センター
秋田大学地域創生センター
〒991-8501 秋田県男鹿市南町1-1-1 秋田大学男鹿なまはげ分校
TEL:0187-241-1111 FAX:0187-241-1112
あきた未来カフェ事業



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成30年度

秋大医学部地域とつながり隊 横手とつながり隊カフェ

地域の皆さんとの情報交換と交流

日時▶ 2019年2月22日(金)～23日(土)

場所▶ 横手市 横手駅前温泉 ゆうゆうプラザ

事業実施効果▶

① 全体

【内 訳】保健学科計	20名
看護学専攻	9名
理学療法学専攻	4名
作業療法学専攻	7名
教員	5名
職員	2名

2/22 (金)ディナーミティング

横手市の医師2名より地域医療の現状の説明と、横手市の皆さんから医療・介護・福祉についての説明を受ける

2/23 (土)トークカフェ (午前)

横手市の民生委員、介護支援専門員の方々とは意見交換を行う。その後、各グループで地域医療の課題と解決方法を話し合い、学生が代表して発表を行った

横手ふるさと村にてフリータイム(午後)

② 学 生

【参加人数】 20名

- 【反 応】
- ・地域が抱えている問題や課題を直接聞くことが出来てよかった
 - ・医療介護についての理想の形を理解した上で地域に応じた対応をしていくことが重要だと感じた
 - ・今あるマンパワーで出来る事をやるという言葉が心に残った

③ 地 域

【参加人数】 18名

- 【反 応】
- ・看護師不足のため、受け入れのできないベッドが多数ある。ぜひ、県南地域、横手市に就職してもらい、地域医療を支える力になってもらいたい



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成31年度 ママカフェ

妊婦向けに情報交換の場としてカフェを実施

日時▶第2, 4金曜日 14:00～16:00

場所▶秋田大学医学部医学系研究棟
地域包括ケア・介護予防研修センター(暮らしの保健室)

事業実施効果▶

①全体

【参加人数】平均 10～13名/回

【内訳】学生 …………… 1名
妊婦 …………… 2名
母親(乳幼児) …………… 10名

- 【反応】・ママカフェが妊婦、母親の情報交換の場として定着した
・参加者同士がつながりを構築し、ママカフェの外でも情報交換をしている
・参加者が日頃不安に思っていることを相談する場になっている

②学生

【参加人数】1～2名/回(平均)

- 【反応】・妊産婦との交流の場となっている
・母親の心身の状態を直接感じ取る場になっている
・妊産婦、乳幼児への思いやりが醸成されている

③地域

【参加人数】上期1～2名/回 下期5～8名/回(平均)

- 【反応】参加者が固定し、顔見知りになって情報交換の場として役立っている



▶ 3. あきた未来カフェ事業

平成31年度

秋大医学部地域とつながり隊 藤里とつながり隊カフェ

地域の保健医療関係者や住民と交流し、地域や集まったメンバーとのつながりを強化する

日時▶ 2019年5月24日(金)～25日(土)
場所▶ ホテルゆとりあ藤里

事業実施効果▶

- ①全体 5/24(金) ディナーミーティング
医師、保健師の方々から地域医療の現状の説明を受ける
- 5/26(土) トークカフェ(午前)
町役場職員、社協職員、保健師、看護師、地域のみなさんと情報及び意見交換を行い、その後、各グループごとに意見をまとめ、学生が代表して発表した
昼食後、社協の方の案内で場所を移動してわらび採りをした

②学 生

- 【参加人数】 18名
- 【内 訳】 医学科 …………… 0名
保健学科計 …………… 13名
看護学専攻 …………… 9名
理学療法学専攻 …………… 2名
作業療法学専攻 …………… 2名
教員 …………… 5名

- 【反 応】 ・藤里から病院に行くには能代までいかなければならない
・高齢者でも生活のためには車を運転する必要があるとわかった
・地域の皆さんの医療に対する生の声を聴くことが出来た
・地域の皆さんがとても活発に意見を出してくれたので良かった
・高齢者が多くても日々の生活を楽しんでいた
・2日目のワラビ餅作りでは貴重なワラビ粉を用意してくれて感動した

③地 域

- 【参加人数】 ディナーミーティング 10名、トークカフェ 15名
- 【反 応】 ・高齢化が著しい地域だが私たちが努力をしていることが伝わればいいと思う
・ぜひ、秋田県に就職してほしい
・学生の斬新なアイデアが聞けて楽しかった
・次回開催があればまた参加したい

秋田大学大学院医学系研究科地域包括ケア学際予防研修センター
秋田大学地方創生センター

秋大医学部 藤里とつながり隊CAFE

学生と地域とのつながりをつくるイベントです!!
藤里町に泊まって、藤里の皆さんと交流(カフェして、藤里とつながろう!)

参加者募集

開催日程 5月24(金)～25日(土) 藤里町

●1日目 5月24日(金) ●2日目 5月25日(土)

16:00 医学部をバスで出発 8:00 朝食

17:30 藤里町到着 10:00 藤里の方々トークカフェ

18:00 藤里町の保健医療について 12:00 昼食

↓ 学習会・夕食会 13:30 藤里町内ミニツアー!

21:00 学習会・夕食会 15:30 藤里町を出发

16:30 医学部に到着・解散

※各日朝は変更になる場合がございます

申込方法はメールにてお願ひします。
件名は「秋大医学部藤里とつながり隊」参加希望。本文に①氏名②学年③専攻④医学科、保健学科看護学の理学療法or作業療法⑤年齢⑥電話番号⑦住所⑧メールアドレスを記載し、所属の大学で送ってください。

※申込期限は5月19日(金)。Eメール⇒chikita@hokkai-u.ac.jp
参加申込者の方々を対象に「事前説明会」を開催させていただきます。必要書類の記入もお願いいたします。詳細につきましてはお申し込みのEメールにてご案内させていただきます。

参加無料

※参加料ですが、宿泊費・食費・交通費10,000円程度を徴収させていただきます。詳細金額は事前にお知らせいたします。
※後日、参加者の方々の銀行口座に上記の金額を振込させていただきます。

※今年度も、秋田県内からのご参加を予定しています。
※前年度、実習や授業の期間で出席できなかった方も、是非、ご参加ください!

秋田大学大学院医学系研究科地域包括ケア学際予防研修センター
秋田県秋田市長通一丁目1番11号 医学系研究棟101
TEL:0187-573721(TEL:0187-573811) FAX:0187-573722
Eメール:chikita@hokkai-u.ac.jp
あきた未来カフェ事業



▶ 3. あきた未来カフェ事業

令和元年度

お茶を飲みながらつながりませんか、 語りませんか

医療、福祉に従事している方の日頃思っていることなどを話し合い、情報交換の場にしたい

日時▶ 2019年9月26日（木）

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 地域包括ケア・介護予防研修センター（暮らしの保健室）

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 学生 …………… 1名
 介護施設等 …………… 12名
 スタッフ …………… 1名
 教員 …………… 6名

【反 応】 ・悩みが自分だけではないとわかってよかった
 ・普段こういう機会がないのでとても楽しかった
 ・他の業種の皆さんの声を共有できて良かった
 ・またこういう機会があれば参加したい

②学 生

【参加人数】 1名

【反 応】 ・異なる職種の皆さんの声を聞くことができ良かった
 ・職業選択の幅が広がった気がした
 ・様々な職場のことを聞いて良かった
 ・多職種で連携することの大切さを改めて実感した

～秋田市多職種カフェ～

**お茶を飲みながら
つながりませんか、語りませんか**

開催日時

2019年9月26日（木）
18:00～20:00

場 所

地域包括ケア・介護予防研修センター（暮らしの保健室）
秋田大学大学院医学系研究棟1階

対 象

秋田市で医療、福祉等の仕事に従事されている方
(秋田市以外の方も参加可能です！)

様々な立場の皆さんの交流の場として、
「横のつながり」を作り、今後の地域包括ケアに活かしていきましょう。

定 員

20名（先着順）
（定員に達し、お断りさせていただきます）

費 用

無料

駐 車 場

外来一般駐車場を
ご利用ください（有料）





申し込み方法：FAXまたはE-mail

締め切り
9月18日
水曜日

裏面の申込用紙にご記入の上、FAXにてお送りください
 FAX番号：018-884-6558
 E-mailの場合は下記の項目を明記し、下記アドレスまでお申し込みください
 E-mail：chiki@hs.akita-u.ac.jp
 ①氏名 ②年齢 ③連絡先（電話番号またはE-mailアドレス）④所属施設名

主催：秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター・秋田大学地方創生センター
 TEL&FAX：018-884-6558 E-mail：chiki@hs.akita-u.ac.jp

▶ 3. あきた未来カフェ事業

令和元年度

秋大医学部地域とつながり隊 仙北とつながり隊カフェ

地域の保健医療関係者や住民と交流し、地域や集まったメンバーとのつながりを強化する

日時▶ 2019年10月25日(金)～26日(土)

場所▶ 西木温泉ふれあいプラザ クリオン

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 医学科	1名
保健学科計	14名
看護学専攻	7名
理学療法学専攻	1名
作業療法学専攻	6名
教員	5名

10/25(金) ディナーミーティング

仙北市の保健師、介護支援専門員の方々から地域医療の現状の説明を受ける

10/26(土) トークカフェ(午前)

仙北市役所職員、社協職員、保健師、看護師、地域のみなさんと情報及び意見交換を行ったその後、各グループごとに意見をまとめ、学生が代表して発表した
昼食後、樺細工工芸体験

②学生

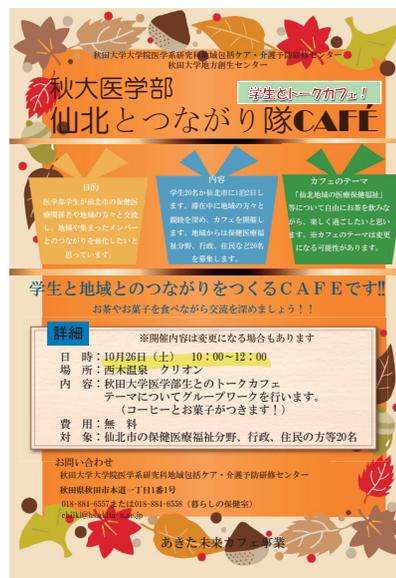
【参加人数】 15名

- 【反 応】
- ・トークカフェの時間がもっと欲しかった
 - ・地域医療に関心が湧いた
 - ・地域の皆さんともっとお話をしたかった
 - ・多職種の皆さんとお話できて良かった
 - ・また機会があれば参加したい

③地域

【参加人数】 20名 ※教員・学生以外的人数

- 【反 応】
- ・地域医療を担う学生さんとお話できてよかった、パワーを感じた
 - ・ぜひ、秋田県に就職してほしい
 - ・若い方の話を聞いて良かった
 - ・学生さんの意見をもっと聞きたかった



▶ 3. あきた未来カフェ事業

令和元年度 **がんカフェ**

がんについて自由にお話をしながら情報交換を目的として開催

日時▶ 2019年11月9日(土)

場所▶ 秋田大学医学部医学系研究棟 第1講義室

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】 教員	5名
学生	6名
看護師	2名
会社員	3名
学校職員	3名
ケアマネ	2名
自営業	1名
パート	1名
計	23名

- 【反 応】
- ・大学生と交流できてよかった
 - ・生きていくことをより一層考えさせられた
 - ・温かい雰囲気でした
 - ・患者の生の声を聞くことが出来たので、日常業務に活かしたい
 - ・講師の方のお話から、人と人のつながりの大切さを学んだ
 - ・今後も継続してほしい

②学 生

【参加人数】 6名

- 【反 応】
- ・教科書からは学べないことをたくさん学べた
 - ・当事者団体など、秋田にもたくさんあると知って良かった
 - ・ガン経験者、専門職の両方の立場のお話を聞くことが出来てとても勉強になった
 - ・学生の時から生の声を聞くことも大事だと思った
 - ・自由に話せる雰囲気だったので、多くの人とコミュニケーションをとることが出来てよかった
 - ・沢山の意見交換ができてよかった
 - ・生きていく上でいろいろなヒントをもらったと思う
 - ・時間がたりないと思うくらいの内容だった
 - ・また参加したい

秋田未来カフェ事業
～がん経験者と語ろう～
がんカフェ
—がんと共に生きることを考える—

講師 村本高史(むらもと・たかし) サッポロビール株式会社 人事部トレーニング・ディレクター
1964年東京都生まれ。1987年サッポロビール入社。2009年、44歳の時に頸部食道がんを発症し、放射線治療で再発。11年、サッポロビール社の人事総務部長を辞めていじめが原因で再発し、手術で食道を再建する。再発を念頭に全食。その後、食道再建法を習得し、脱せるようになる。14年秋以降、食道癌専門(専門職)としてコミュニケーション強化等の組織風土改革に貢献しつつ、職務体験や思いを語る「いのちを伝える会」を主宰中。

会場 総合研究棟(医学系研究棟)第1講義室
対象 秋田県内のがん経験者、ご家族など
日時 11月9日(土) 13:00~15:00
定員・費用 50名・参加無料
申込方法 裏面申込用紙に必要事項を記載の上、FAX018-884-6558迄お申し込みください。申込多数の場合は抽選となります。定員超過で参加をお断りする場合がございます。ご連絡いたします。

がん経験者である村本氏の体験談や現在の活動をご紹介します。
村本氏を交え、お茶を飲みながら日頃の想いを自由に話してください。

駐車場 外來駐車場
をご利用ください(有料)

お問合せ先
秋田大学大学院医学系研究科・医学部内 地域包括ケア・看護予防研修センター
住所 秋田内本道1-11 電話 0187-884-6557-8 mail chihara@hs.akita-u.ac.jp



▶ 3. あきた未来カフェ事業

令和元年度

秋大医学部地域とつながり隊 にかほとつながり隊カフェ

地域の保健医療関係者や住民と交流し、地域や集まったメンバーとのつながりを強化する

日時▶ 2020年2月7日(金)～8日(土)
場所▶ にかほ市 温泉保養センターはまなす

事業実施効果▶

①全体

【内 訳】保健学科計	18名
看護学専攻	12名
理学療法学専攻	2名
作業療法学専攻	4名
教員	5名

2/7(金)ディナーミーティング

にかほ市の保健師、介護支援専門員の方々から地域医療の現状の説明を受ける

2/8(土)トークカフェ(午前)

にかほ市役所職員、社協職員、保健師、看護師、地域のみなさんと情報及び意見交換を行ったその後、各グループごとに意見をまとめ、学生が代表して発表を行った
ミニツアー:白瀬南極探検隊記念館、フェライト子ども科学

②学生

【参加人数】15名

- 【反 応】
- ・トークカフェの時間がもっと欲しかった
 - ・地域医療に関心が湧いた
 - ・地域の皆さんともっとお話がしたかった
 - ・多職種の皆さんとお話できて良かった
 - ・また機会があれば参加したい

③地域

【参加人数】20名

- 【反 応】
- ・地域医療を担う学生さんとお話できてよかった、パワーを感じた
 - ・ぜひ、秋田県に就職してほしい
 - ・若い方の話を聞いて良かった
 - ・学生さんの意見をもっと聞きたかった

秋田大学大学院医学系研究科地域包括ケア・介護予防研修センター
秋田大学地方創生センター

学生と地域とのつながりをつくるイベントです!!
にかほ市に泊まって、にかほの皆さんと交流(カフェ)して、
にかほとつながろう!

参加者募集

開催日程 2月7(金)～8日(土) にかほ市

●1日目 2月7日(金) ●2日目 2月8日(土)

16:00 医学部をバスで出発 8:00 朝食

17:30 にかほ市到着 10:00 にかほ市の方々トークカフェ

18:00 にかほ市の保健医療について 12:00 昼食

! 学習会・夕食会 13:30 にかほ市内ミニツアー!

21:00 15:30 にかほ市を出发

16:30 医学部に到着・解散

※日程は変更になる場合があります

申込方法 申し込みはメールでお願ひします。
件名は「秋大医学部にかほとつながり隊(参加希望)」。本文には「氏名・学
部・専攻・学年・保健師や介護支援専門員(希望)・作業療法士や理学療法
士希望のメールアドレスを記載し、下記のアドレスまで送信してください。
【申込受付は1月31日(月)】。メールアドレスはbankita@aac.jp
※参加希望の方々のみには事前抽選で参加させていただきます。必要
書類の記入もいただきましたので、詳細につきましてはお申し込み後だ
いたメールに案内させていただきます。

注意 参加無料ですが、宿泊費・食費・交通費10,000円程度
を定めていただく必要があります。(詳細は募集要項に説明します)
当日、参加者の方々の銀行口座に立て替え分の金額を
振込させていただきます。

※参加無料です!
※参加無料です!
※参加無料です!
※参加無料です!

秋田大学大学院医学系研究科地域包括ケア・介護予防研修センター
秋田県秋田県本道一丁目1番1号 秋田大学秋田校1階
TEL 0187-45722(受付)・0187-9541(333)(留守の応答) m.chikita@aac.hokudai.ac.jp
あきた未来カフェ事業



おらほの暮らしの保健室

暮らしの保健室」はイギリスのがん患者のためのマギーズキャンサーケアリングセンターをコンセプトに、2011年頃から日本でも開設されています。

病院のごく近隣にあり、退職後の保健師や看護師等の専門職がボランティアとして常駐し、がん患者に限らず、療養者や高齢者・家族の、健康・医療・介護、そのほか暮らしに関わる様々な相談支援を行う場です。

秋田大学では、「おらほの暮らしの保健室in秋田大学」と命名し、2015年1月に本道会館2階に開設しました。2018年1月には医学系研究棟1階へ移転し、活動しています。

年度別利用者数（2016年度より集計開始）

2015年度	-名
2016年度	177名
2017年度	290名
2018年度	442名
2019年度	104名



認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座は、厚生労働省の認知症施策「認知症サポーターキャラバン」の一環で、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組もうというものです。全国の地域や職域団体等で、キャラバン・メイトが講師役となり、住民講座、ミニ学習会として開催されています。地域包括ケア・介護予防研修センターでもメイトスタッフが認知症サポーター養成講座を開催しています。



スタッフより

●津軽谷 恵（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座）

本センターが開設されてからの歩みを振り返りますと、多岐にわたる事業に企画から運営まで関わらせていただきました。特に地域とつながり隊カフェは非常に実りの多い事業でありました。秋田県内の6市町村(男鹿市、横手市、藤里町、仙北市、にかほ市、湯沢市)にご協力いただき、いずれの地域も住民の方々や行政職員・医療関連職の皆様が学生や教員を温かく迎えてくださり、各地域の実情をもとに課題解決のためのアイデアをカフェ形式で楽しく話し合い、交流を深めることができました。文字通り地域と大学がつながり、将来、医師・看護師・理学療法士・作業療法士として働く学生の「地域の診かた」に少なからずつながったのではないかと思います。今後は、新たな事業にも挑戦していきたいと思いますが、県民の皆様にも私たちの事業を多く知っていただけるように情報発信をしていき共に参画していただければ幸いに存じます。

●上村 佐知子（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法学講座）

地域包括ケア・介護予防研修センターは、秋田県の地域包括ケアシステム向上のために作られた秋田大学の機関であり、きめ細やかな研修会や講演会が行われています。また、認知症サポーター養成講座や「地域とつながり隊」、暮らしの保健室など、地域に暮らす人々にとって有用なものであれば何でも取り入れて活動しています。さらに、こうした活動は本学学生の教育としても非常に役立っています。今後一層関わってくれる学生の範囲を広げていきたいものだと考えています。私事ではありますが、介護や子育ての悩みを抱えている1人の生活者としても本センターの事業はありがたいものです。受講生の方々に混じって勉強できたり、リフレッシュできたりしています。地域包括ケアは人ごとではありません。自分や身近な人がいる限り、誰もが通る道です。今後も自分のこととして、関わり、多くの方々と共働できたらいいなと思っています。よろしく願いいたします。

●藤田 智恵（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学講座地域看護学分野）

当センターの開設当初より、スタッフとして諸事業の運営に携わって参りました。開設当初は本当に手探りの日々で、特に「おらほの暮らしの保健室」の開設にあたっては、レイアウトはもちろん、物品も買い出しに行ったり、組み立てたりと、まさにスタッフによる「Handmade」であり、場所は移転してしまいましたが、今も自分自身の中ではとても愛着のある空間となっています。今後も、地元 秋田の応援団の一人として、汗をかきたいと思っています！「汗」といえば(!)、コグニサイズの活動もさらにパワーアップして展開していきます！！

●宗村 暢子（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学講座成人看護学分野）

2017年より本センターのスタッフとして企画・運営に携わってまいりました。秋田で生まれ育ち40数年になりますが、恥ずかしながらまだ一度も行ったことのない県内の市町村が多くあります。その地域の保健福祉医療の現状やその地域の生活を知るための「地域つながり隊」への参加は、私にとっても貴重な体験となっております。学生、医療・福祉に従事されている方、地域の人たちとのつながりを大切に、今後もセンターの一員として魅力的な事業を企画・運営していきたいと思っています。

スタッフより

●佐藤 亜希子（秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター）

センターの開設当初は講演会・研修・暮らしの保健室の開設など、すべてが初めてのことで戸惑いの連続でした。しかし、スタッフの先生方や暮らしの保健室のボランティアの皆様に支えられ、気付けば多くの事業を開催できるようになりました。地域で開催する事業も多く、地域の方々と触れ合いながら楽しく事業を行うことができました。センターの事業で出会った地域の方々には感謝しかありません。大学と地域の窓口として、今後も秋田県の地域包括ケアシステムのためにできることは何かを常に考え、活動していきたいと思います。

●伊藤 利詠（秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター）

私は事務スタッフとして地域包括ケア・介護予防研修センターで開催された多くの講座や事業などに携わせていただきました。特にあきた未来カフェ事業で県内各地を訪れた際、行く先々で何かを得て帰ろうという学生の姿勢が頼もしく、とても印象に残っています。

また、本センターの先生方には公私問わず様々なことを相談し、的確なアドバイスいただきました。「おらほの暮らしの保健室」には私自身も助けられたという思いでいっぱいです。

今後も秋田県内の皆さまに各種講座、研修等に参加して良かったと言っていただけできるよう、微力ながらお手伝いをしていきたいと思います。

平成 26 年－令和元年度
秋田大学大学院医学系研究科附属
地域包括ケア・介護予防研修センター
事業報告書

令和 3 年 3 年 吉日

発 行 秋田大学大学院医学系研究科

編集・発行 秋田大学大学院医学系研究科附属
地域包括ケア・介護予防研修センター

印 刷 株式会社 くまがい印刷
